

中野市

BIWAJIMA

琵琶島遺跡

HEKIDAJYOSEKI

壁田城跡

NEGOYA

ねごや遺跡

一般県道豊田中野線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

2016. 3

長野県北信建設事務所
長野県埋蔵文化財センター



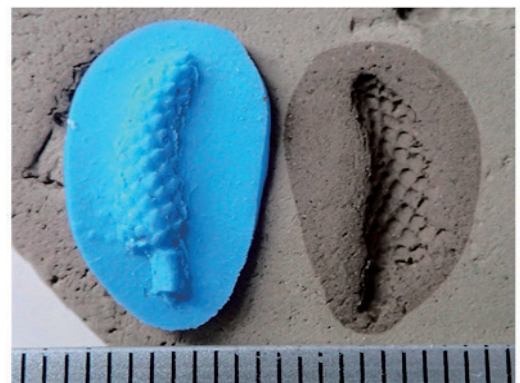
琵琶島遺跡遠景



琵琶島遺跡の周溝跡群



琵琶島遺跡出土の栗林式壺形土器



栗林式土器の植物利用の文様と施文具（ハンノキ属雄花序の冬芽）

はじめに

高社山を前方に望み、千曲川は中野盆地から飯山盆地に向かって大きくうねりながら、左右の丘陵間を縫って北流していきます。その千曲川が最も蛇行している場所に遺跡はあります。左岸に琵琶島遺跡、右岸に壁田城跡、ねごや遺跡が位置しています。平成 26 年に国の重要文化財に指定された銅戈、銅鐸を出土した柳沢遺跡はその下流に控えています。琵琶島遺跡は古くから弥生時代の遺跡として知られていましたが、平成 22 年度の中野市による試掘調査で、その範囲はさらに北側へと拡がりました。長野県埋蔵文化財センターでは一般県道豊田中野線の建設にともない、平成 23～25 年度に琵琶島遺跡、平成 26 年度に壁田城跡とねごや遺跡の一部、平成 27 年度にねごや遺跡の発掘調査を実施しました。その後、整理作業を継続してまいりましたが、この度、発掘調査成果を報告書として刊行する運びとなりました。

琵琶島遺跡は、今から約 2300 年前の弥生時代中期後半栗林式土器の古い段階を中心とする、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、周溝跡の遺構を主な構成要素とする集落遺跡です。さらに琵琶島では 1 万年以上前の縄文時代草創期の人々の営みも確認できました。千曲川対岸の壁田城跡、ねごや遺跡は、中世城郭に関わる遺跡として調査を行ないましたが、わずかな遺構・遺物の発見にとどまりました。

これらの遺跡の調査成果は、将来にわたって旧豊田村と中野市を結び、私たちの過去と現在を繋ぐ、大変貴重な財産となります。

最後になりましたが、発掘調査から整理等作業、本報告書の刊行に至るまで深い御理解と御協力をいただいた地元地権者や区長の皆さま、中野市裕・笠倉・壁田地区の方がた、中野市教育委員会、長野県教育委員会文化財・生涯学習課や長野県立歴史館、発掘・整理等作業に従事協力いただいた方がたに、心から敬意と感謝を表す次第です。

例言

- 1 本書は、長野県中野市に所在する琵琶島（びわじま）遺跡、壁田城跡（へきだじょうせき）、ねごや遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、一般県道豊田中野線建設工事に伴う記録保存調査として、長野県北信建設事務所の委託を受けた一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 これまでの発掘・整理等作業の概要は、『長野県埋蔵文化財センター年報』28～31、現地説明会・速報展の資料等で紹介してきたが、本書の記述をもって最終報告とする。内容に相違がある場合は、本書をもって訂正する。
- 4 本書で使用した地図は、国土交通省国土地理院発行の1:25,000 地形図「替佐」、1:50,000 地形図「中野」、1:2,500 中野市基本図である。
- 5 発掘作業、整理等作業において、以下の機関に業務委託をした。
平成 23 年度
測量：(有) 測地
平成 24 年度
測量：(有) 測地
遺物注記：第一合成 (株)
C14 年代測定：(株) 加速器分析研究所
珪藻・花粉分析：パリノ・サーヴェイ (株)
平成 25 年度
測量：(株) みすず総合コンサルタント
C14 年代測定：(株) 加速器分析研究所
珪藻・花粉分析：(株) 古環境研究所
鉄製品 X 線撮影および応急的保存処理：(株) 文化財ユニオン
平成 26 年度
測量（壁田城跡）：新日本航業 (株)
法面掘削（壁田城跡）：中野土建 (株)
プラント・オパール分析（ねごや遺跡）：パリノ・サーヴェイ (株)
炭素・窒素安定同位体比および総炭素量・総窒素量分析：(株) 加速器分析研究所
C14 年代測定：(株) 加速器分析研究所
レプリカ法による土器の施文具圧痕の推定：(株) パレオ・ラボ
遺物写真撮影：信毎書籍印刷 (株)
平成 27 年度
測量（ねごや遺跡）：(株) みすず総合コンサルタント
報告書印刷製本：奥付に記載

- 6 発掘調査および報告書刊行にあたり、以下の方々、機関に御指導、御協力をいただいた。お名前を記して感謝の意を表する（敬称略）。
石川日出志、市澤英利、神田弓月、桐原 健、工樂善通、笹澤 浩、鈴木三男、土屋 積、
中島庄一、中村由克、禰亙田佳男、久田正弘、山田昌久、淡路市教育委員会（伊藤宏幸、谷 幸樹）、
長野県立歴史館、中野市教育委員会、中野市立博物館
- 7 発掘・整理等作業の担当者、発掘・整理作業員は第1章第1節第3表に記載した。
- 8 本書は、第1章を黒岩隆・町田勝則、第5章を鶴田典昭・小林伸子、第7章第1節2を黒岩隆・町田勝則、それ以外を黒岩隆が執筆し、調査部長平林彰、調査第2課長町田勝則が校閲した。
- 9 註および引用・参考文献は、各章の末尾に記載した。ただし第3章については、各節の末尾に記載した。
- 10 調査資料（実測図面、写真等の記録類）および遺物は報告書刊行後、長野県立歴史館または中野市教育委員会へ移管予定である。

凡例

- 1 遺物分布図、遺構図等に示した国家座標は、世界測地系の値である。
- 2 遺物番号（掲載図番号）は、本文、実測図、挿図、挿表、遺物出土状況図、写真のすべてに共通する。
- 3 基本土層、埋土の色調の記録は、『新版 標準土色帖 35版』（2013.3）による。
- 4 本書掲載図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

（遺構実測図）

全体図（1：1000、1：1600） 割付配置図（1：1000） 割付図（1：100） 竪穴住居跡（1：60）
掘立柱建物跡（1：80） 周溝跡・溝跡（1：80） 柵跡（1：80） 遺物集中（1：80）
土坑（1：40） 焼土跡（1：60） 不明遺構（1：80）

（遺物実測図）

土器実測図（1：4） 土器拓本（1：3） 土製品、鉄製品（1：2） 石製品、ガラス製品（1：1）
石器実測図（1：2、1：3、2：3、1：4、1：6）

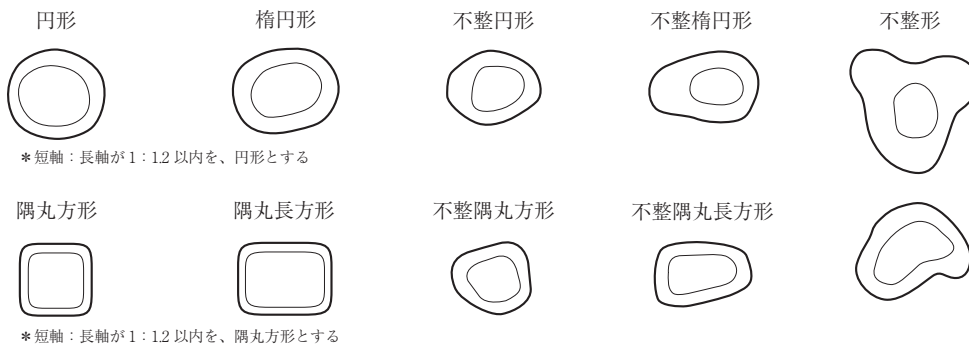
上記以外の縮尺も用いているが、それぞれ図中に記載した。

また、遺構図版に付随して掲載した遺物実測図の縮尺は、以下のとおりである。

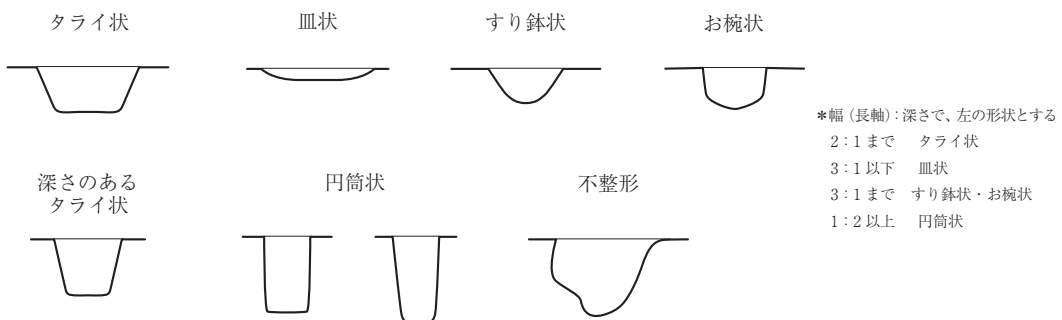
土器実測図（1：8、1：12） 土器拓本（1：6） 土製品（1：4） 石器実測図（1：3、1：8）
鉄製品（1：8）

- 5 本書の琵琶島遺跡では、人工的ではない可能性がある落ち込みを、土坑に準ずるという意味で「準土坑」とした。調査区全体で175基を調査した。
- 6 「土坑」をはじめとした遺構の説明の際、平面形、断面形を下記の基準で分類した。

平面形

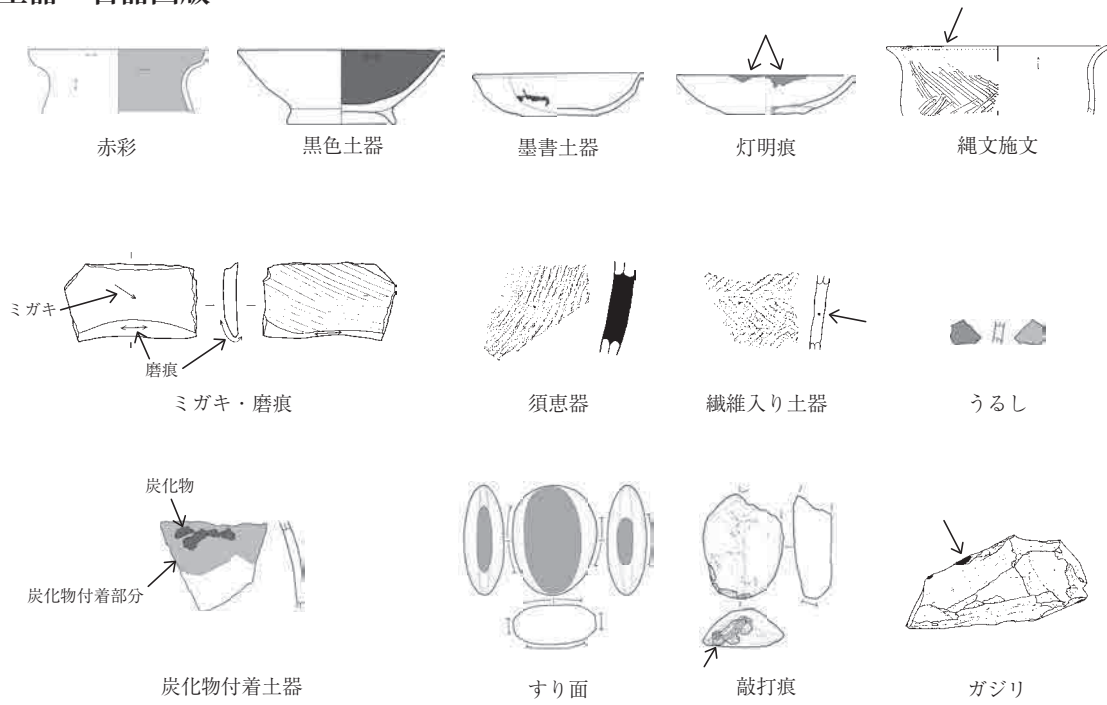


断面形



7 本書で用いたスクリーントーンおよび記号の凡例は、以下のとおりである。このほかのものは、各図版に凡例を付した。

土器・石器図版



遺構図版



目次

口絵

はじめに

例言

凡例

目次

図版目次

表目次

写真図版目次

添付 DVD 収録データ

第1章 調査の経過と方法

第1節 発掘調査の経緯と作業経過	1
1 調査に至る経緯	1
(1) 試掘調査 (2) 本発掘調査	
2 発掘作業と整理等作業の経過	3
(1) 発掘作業 (2) 整理等作業	
3 調査体制	5
4 調査日誌抄	5
(1) 発掘作業 (基礎整理作業を含む) (2) 本格整理作業	
第2節 発掘調査の方法	9
1 発掘作業の方法	9
(1) 遺跡記号と遺構記号	
(2) 調査グリッドの設定と呼称	
(3) 掘削および記録作成等	
2 整理等作業の方法	12
(1) 遺物の整理 (2) 遺構図の整理 (3) 写真記録の整理	
3 報告書の作成と資料の収納	13
(1) 報告書の作成 (2) 資料の収納	
第3節 発掘調査の公開	14
1 発掘だよりの発行	14
2 体験型現地説明会の開催	15
3 北信合同庁舎ロビー展の開催	15

第2章 遺跡の環境と概要

第1節 遺跡の位置と地理的環境	16
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	18

第3章 琵琶島遺跡の調査	
第1節 琵琶島遺跡の概観	28
1 遺跡の範囲	28
2 発掘調査歴	29
3 調査の概要	29
4 基本層序	58
第2節 遺構	64
1 竪穴住居跡	64
概要 SB01・02	
2 掘立柱建物跡	66
概要 ST01～19・22～27	
3 溝跡（周溝跡を含む）	77
概要 SD01～05	
周溝跡（平地建物跡の可能性）について	
4 柵跡	82
概要 SA01・02	
5 遺物集中	83
概要 SQ01	
6 土坑	84
概要 個別SK	
7 焼土跡	87
概要 SF01～04	
8 不明遺構	88
第3節 遺物	124
1 縄文時代	124
(1) 土器 (2) 石器	
2 弥生時代	134
(1) 土器 (2) 土製品 (3) 石器、石製品、ガラス製品	
3 古墳時代	144
(1) 土器 (2) 鉄製品	
4 平安時代	146
(1) 土器 (2) 鉄滓（金床石小片を含む）	
第4章 壁田城跡の調査	
第1節 遺跡の範囲と沿革・概要	165
1 遺跡の範囲	165
2 城跡の沿革・概要	165
第2節 調査の方法と調査成果	165
1 調査の方法	165
2 調査の成果	167

第3節 小 結	171
第5章 ねごや遺跡の調査	
第1節 調査の概要	179
1 調査の経緯と概要	179
2 基本土層	182
第2節 遺構と遺物	182
1 遺構	182
2 遺物	186
第3節 小 結	187
第6章 科学分析	
第1節 科学分析の概要	188
第2節 C14年代測定	188
1 試料採取地点	188
2 分析結果と所見	193
第3節 炭素・窒素安定同位体分析	194
第4節 珪藻・花粉分析、プラント・オパール分析	195
1 試料採取地点と分析結果	195
2 所見	195
第5節 レプリカ法による土器の施文具圧痕の推定	196
1 分析試料と分析結果	196
2 所見	196
第7章 総 括	
第1節 琵琶島遺跡調査成果のまとめ	202
1 琵琶島遺跡調査成果の概要	202
2 栗林1式土器について	202
3 栗林1式期の集落	208
4 長野盆地北部・飯山盆地における栗林式期の遺跡	208
第2節 今後の課題	211
(1) 栗林式土器の変遷と栗林文化の動態について	
(2) 掘立柱建物跡が竪穴住居跡を圧倒する集落の意味	
(3) 長野県内にみられる「周溝跡」の性格についての解明	
(4) 栗林式土器における植物利用の施文具についての集成	
遺物観察表	215
写真図版	
報告書抄録	

図版目次

第 1 図	県道建設用地と発掘調査区	3	第 36 図	割付図⑳	57
第 2 図	グリッド設定の方法	10	第 37 図	琵琶島遺跡の土層	59
第 3 図	調査範囲とグリッド設定図	11	第 38 図	東区中央（西区）基本土層	60
第 4 図	遺跡の位置	16	第 39 図	西区、東区北側・東側基本土層	61
第 5 図	調査遺跡周辺の鳥瞰図	17	第 40 図	東区南側基本土層	62
第 6 図	周辺の遺跡分布図	22	第 41 図	南区基本土層	63
第 7 図	長野盆地北部・飯山盆地における 弥生時代中期の遺跡分布図	27	第 42 図	掘立柱建物跡の長軸と短軸の長さ	66
第 8 図	琵琶島遺跡の遺跡範囲と調査区範囲	28	第 43 図	掘立柱建物跡の長軸方位	66
第 9 図	琵琶島遺跡の調査範囲と グリッド設定図	30	第 44 図	平地建物跡の比較（北信と北陸）	81
第 10 図	遺跡全体図	31	第 45 図	SB01 遺構図	90
第 11 図	割付配置図	32	第 46 図	SB01 遺構図・出土遺物	91
第 12 図	割付図①	33	第 47 図	SB02 遺構図	92
第 13 図	割付図②	34	第 48 図	ST01～03 遺構図	93
第 14 図	割付図③	35	第 49 図	ST04～06 遺構図	94
第 15 図	割付図④	36	第 50 図	ST07、09～11 遺構図	95
第 16 図	割付図⑤	37	第 51 図	ST08 遺構図	96
第 17 図	割付図⑥	38	第 52 図	ST12～15 遺構図	97
第 18 図	割付図⑦	39	第 53 図	ST16～19、22 遺構図	98
第 19 図	割付図⑧	40	第 54 図	ST23～25 遺構図	99
第 20 図	割付図⑨	41	第 55 図	ST26、27 遺構図	100
第 21 図	割付図⑩ -1・2	42	第 56 図	SD01、02 遺構図	101
第 22 図	割付図⑪	43	第 57 図	SD03、05 遺構図	102
第 23 図	割付図⑫	44	第 58 図	SD04、SA01・02、SQ01 遺構図	103
第 24 図	割付図⑬	45	第 59 図	SK 遺構図 (1)	104
第 25 図	割付図⑭	46	第 60 図	SK 遺構図 (2)	105
第 26 図	割付図⑮	47	第 61 図	SK 遺構図 (3)	106
第 27 図	割付図⑯	48	第 62 図	SK、SF01～04 遺構図	107
第 28 図	割付図⑰	49	第 63 図	SX01～08 遺構図	108
第 29 図	割付図⑱	50	第 64 図	縄文時代グリッド別土器分布図	124
第 30 図	割付図㉑	51	第 65 図	縄文時代 SK、遺構外出土土器	128
第 31 図	割付図㉒	52	第 66 図	縄文時代遺構外出土土器 (1)	129
第 32 図	割付図㉓	53	第 67 図	縄文時代遺構外出土土器 (2)	130
第 33 図	割付図㉔	54	第 68 図	縄文時代石器	131
第 34 図	割付図㉕	55	第 69 図	縄文時代、弥生時代石器 (1)	132
第 35 図	割付図㉖	56	第 70 図	縄文時代、弥生時代石器 (2)	133
			第 71 図	中野市試掘資料 (SB01 出土石器)	133
			第 72 図	弥生時代グリッド別土器分布図	134

第 73 図	栗林式土器文様呼称法	136	第 103 図	斜面部中央 3 土層図	174
第 74 図	栗林 1 式土器にみられる 「刻み」文様の種類	141	第 104 図	斜面部南側・北側 1 土層図	175
第 75 図	「刻み」文様の種類集計	142	第 105 図	斜面部北側 2 土層図	176
第 76 図	古墳時代グリッド別土器分布図	145	第 106 図	斜面部北側 3 土層図	177
第 77 図	平安時代グリッド別土器分布図	146	第 107 図	山裾部、低地部土層図	178
第 78 図	器種の部位呼称法	147	第 108 図	ねごや遺跡全体図	180
第 79 図	鉢形土器の細分	148	第 109 図	ねごや遺跡土層断面図	181
第 80 図	装飾帯の呼称と構成	148	第 110 図	3 区遺構配置図	184
第 81 図	弥生時代 SB、ST、SD 出土土器	150	第 111 図	遺構図	185
第 82 図	弥生時代 SK、SQ、遺構外出土土器	151	第 112 図	出土遺物	186
第 83 図	弥生時代遺構外出土土器 (1)	152	第 113 図	琵琶島遺跡 科学分析試料採取地点	189
第 84 図	弥生時代遺構外出土土器 (2)	153	第 114 図	ねごや遺跡 プラント・オパール 分析試料採取地点	190
第 85 図	弥生時代遺構外出土土器 (3)	154	第 115 図	琵琶島・南大原遺跡の弥生時代 中期後半の暦年較正年代	193
第 86 図	弥生時代遺構外出土土器 (4)	155	第 116 図	炭素・窒素 安定同位体比グラフ (参考)	194
第 87 図	弥生時代遺構外出土土器 (5)	156	第 117 図	土器文様とレプリカによる 顕微鏡撮影写真 (1)	198
第 88 図	弥生時代遺構外出土土器 (6)	157	第 118 図	土器文様とレプリカによる 顕微鏡撮影写真 (2)	199
第 89 図	弥生時代遺構外出土土器 (7)	158	第 119 図	土器文様とレプリカによる 顕微鏡撮影写真 (3)	200
第 90 図	弥生時代遺構外出土土器 (8)	159	第 120 図	土器文様とレプリカによる 顕微鏡撮影写真 (4)	201
第 91 図	弥生時代遺構外出土土器 (9)	160	第 121 図	栗林式土器における壺の変遷 (無頸壺・蓋含む)	203
第 92 図	中野市試掘資料 (SB01 出土土器、土製品)	161	第 122 図	栗林式土器における甕の変遷	204
第 93 図	弥生時代土製品、石製品、ガラス製品	162	第 123 図	栗林式土器における鉢の変遷 (甗・片口鉢・高坏・注口土器含む)	205
第 94 図	古墳時代 SK191 出土土器、鉄製品	162	第 124 図	下位段丘上の遺構配置	209
第 95 図	古墳時代遺構外出土土器	163	第 125 図	琵琶島遺跡周辺の 弥生時代中期後半の遺跡	210
第 96 図	平安時代 SK、SF、遺構外出土土器	163			
第 97 図	遺跡範囲と調査範囲	166			
第 98 図	壁田城跡概要図	167			
第 99 図	壁田城跡全体図	168			
第 100 図	壁田城跡トレンチ、ピット区分図	169			
第 101 図	丘陵頂部、北側尾根部、 斜面部中央 1 土層図	172			
第 102 図	斜面部中央 2 土層図	173			

表目次

第 1 表	文化財保護法に係わる諸届一覧	2	第 4 表	琵琶島遺跡 壁田城跡 ねごや遺跡に 係わる公開業務一覧	14
第 2 表	受委託契約一覧	2	第 5 表	琵琶島遺跡周辺遺跡一覧	23
第 3 表	調査体制	5			

第 6 表	竪穴住居跡一覧	109	第 15 表	科学分析試料採取地点一覧	188
第 7 表	掘立柱建物跡一覧	109	第 16 表	C14 年代測定結果一覧	191
第 8 表	周溝跡・溝跡一覧	115	第 17 表	炭素・窒素安定同位体比 および含有量	194
第 9 表	柵跡一覧	115	第 18 表	プラント・オパール (植物珪酸体) 含量	196
第 10 表	遺物集中一覧	115	第 19 表	琵琶島遺跡ほか 出土土器施文部の圧痕レプリカ	197
第 11 表	焼土跡一覧	115			
第 12 表	不明遺構一覧	115			
第 13 表	土坑一覧	116			
第 14 表	トレンチ出土土器数	186			

写真図版目次

PL 1	琵琶島遺跡	遠景	PL18	琵琶島遺跡	弥生土器 2
PL 2	琵琶島遺跡	遺構 1	PL19	琵琶島遺跡	弥生土器 3
PL 3	琵琶島遺跡	基本層序、遺構 2	PL20	琵琶島遺跡	弥生土器 4
PL 4	琵琶島遺跡	遺構 3	PL21	琵琶島遺跡	弥生土器 5
PL 5	琵琶島遺跡	遺構 4	PL22	琵琶島遺跡	弥生土器 6
PL 6	琵琶島遺跡	遺構 5	PL23	琵琶島遺跡	弥生土器 7
PL 7	琵琶島遺跡	遺構 6	PL24	琵琶島遺跡	弥生土器 8
PL 8	琵琶島遺跡	遺構 7	PL25	琵琶島遺跡	弥生土器 9
PL 9	琵琶島遺跡	遺構 8	PL26	琵琶島遺跡	弥生土器 10
PL10	琵琶島遺跡	遺構 9	PL27	琵琶島遺跡	弥生時代土製品ほか、 古墳時代土器
PL11	琵琶島遺跡	遺構 10	PL28	琵琶島遺跡	古墳時代鉄製品・土器
PL12	琵琶島遺跡	縄文土器 1	PL29	琵琶島遺跡	平安時代土器・鉄滓
PL13	琵琶島遺跡	縄文土器 2	PL30	壁田城跡	調査 1
PL14	琵琶島遺跡	縄文土器 3、石器 1	PL31	壁田城跡	調査 2、ねごや遺跡 調査 1
PL15	琵琶島遺跡	石器 2	PL32	ねごや遺跡	調査 2
PL16	琵琶島遺跡	石器 3	PL33	ねごや遺跡	調査 3
PL17	琵琶島遺跡	弥生土器 1			

添付 DVD 収録データ

- A_ 遺物観察表
- B_ 挿表データ
- C_ 科学分析・応急的保存処理報告書
- D_ 発掘調査記録写真
- E_ 弥生土器「刻み」文様写真
- F_ 非掲載実測図データ
- G_ 琵琶島遺跡周辺の弥生時代中期遺跡—遺構配置図—

第1章 調査の経過と方法

第1節 発掘調査の経緯と作業経過

1 調査に至る経緯

長野県中野市豊田地区と中野地区は、千曲川を挟んで東西に対峙した地域である。両地域の交通路は、旧豊田村内に所在する上今井橋のみであり、災害時における代替道路の整備が地元から要望されていた。

千曲川を境に西側の豊田地区を南北に走る国道117号線（第一次震災対策緊急輸送路）と東側の中野地区を南北に走る国道292号線を直結することで、災害に強い交通のネットワークを形成し、北信総合病院（第二次緊急医療機関）さらには上信越自動車道豊田飯山ICへのアクセスを向上させる目的で、長野県は社会資本整備総合交付金を活用し、一般県道豊田中野線の建設計画を進めた。

計画路線内および路線近傍には、豊田地区に琵琶島遺跡（遺跡番号：中野市210）が、中野地区に壁田城跡（遺跡番号：中野市161）が所在し、長野県北信建設事務所（以下「北信建設事務所」という。）は、中野市教育委員会（以下「市教委」という。）および長野県教育委員会（以下「県教委」という。）と開発計画と遺跡の保護について協議した。

路線内に所在する壁田城跡は、記録保存のための本発掘調査を実施することと結論づけられたが、琵琶島遺跡については、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲が路線近傍にあるため、市教委が計画路線内を試掘調査し、その結果を受けて記録保存の必要性を判断することとなった。

また一方で、壁田城跡に関しては、平成25年度に埋蔵文化財包蔵地範囲の見直しが行われ、東側低地部についても記録保存の対象とすべき判断が市教委より示され、拡大部分の範囲を確定するための試掘調査が実施された。

(1) 試掘調査

琵琶島遺跡

市教委は、平成22年11月24日（水）から12月20日（月）まで、琵琶島遺跡隣接地の路線内について、試掘調査を実施した。結果、弥生時代中期の竪穴住居跡1軒を確認し、ほぼ完掘した。調査区内からは、縄文時代や弥生時代中期の土器片にくわえ、古墳時代、平安時代、さらには中世の土器・陶磁器の破片が出土したことから、それら複数の時期にわたる遺物包含層さらには遺構の存在を確定した（中野市教育委員会2011）。この結果をもとに、市教委は琵琶島遺跡の周知すべき埋蔵文化財包蔵地範囲を開発予定地を含む大日影・滝脇地区まで拡大し、中野市遺跡詳細分布図に修正、登載を行なった。

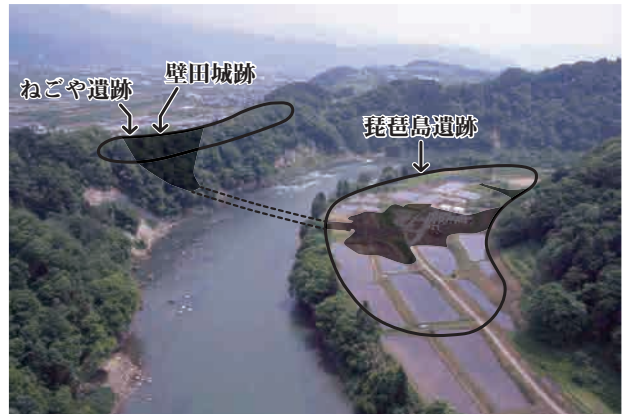
ねごや遺跡

平成26年1月6日付け25中教第600号にて、市教委は壁田城跡の遺跡範囲を拡大した。これを受けて長野県埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」という。）では、その部分を含めた壁田城跡の発掘調査を実施した結果、範囲拡大部分から壁田城跡とは時期や性格の違う埋蔵文化財を発見した。出土遺物の主なものは、縄文時代早期、弥生時代後期、平安時代の土器である。調査後、市教委では壁田城跡とは別の埋蔵文化財包蔵地が東側低地部に存在することを想定し、同年10月27日隣接地の試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかった。試掘調査地の北側には、中世の遺跡として周知されたねごや遺跡（遺

跡番号：中野市 162) が存在するものの、調査歴がないため遺跡の性格は不明である。そこで市教委では、今回の壁田城跡の範囲拡大部分を、ねごや遺跡とほぼ同一立地面に所在することから、ねごや遺跡の遺跡範囲を拡大して解釈することが現実的であると判断し、開発予定地内を含む壁田城跡東側低地部一帯をねごや遺跡とした。

(2) 本発掘調査

前記の試掘調査を経て、千曲川西岸の豊田地区に関しては、遺跡範囲の拡大となった琵琶島遺跡を対象とし、西側の中野地区では壁田城跡にくわえ、遺跡範囲の拡大となったねごや遺跡について、記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。北信建設事務所は、平成 23 年 2 月 2 日付け 22 北建第 251 号で「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知」を提出、県教委は埋蔵文化財の発掘調査を埋文センターに委託して実施する旨、北信建設事務所に通知した。県埋文センターは、平成 23 年度から北信建設事務所と埋蔵文化財発掘調査業務委託を締結し、今年度の報告書刊行に至るまで、5 か年にわたる事業を実施することとなった(第 1・2 表)。



第 1 表 文化財保護法に係わる諸届一覧

遺跡名 (調査年度)	発掘届 (法 92 条 1 項)		発掘許可通知 (法 92 条 2 項)		発掘終了報告		埋蔵物発見届 (遺失物法)		埋蔵文化財保管証		文化財認定 (法 102 条)	
	日付	文書番号	日付	文書番号	日付	文書番号	日付	文書番号	日付	文書番号	日付	文書番号
琵琶島遺跡 (H23)	H23.6.15	23 長埋 第 3-9 号	H23.7.6	23 教文 第 6-11 号	H23.12.15	23 長埋 第 6-13 号	H23.12.15	23 長埋 第 4-17 号	H23.12.15	23 長埋 第 5-17 号	H23.12.26	23 教文 第 20-118 号
琵琶島遺跡 (H24)	H24.2.28	23 長埋 第 3-13 号	H24.3.23	23 教文 第 6-22 号	H24.11.2	24 長埋 第 4-5 号	H24.11.2	24 長埋 第 2-5 号	H24.11.2	24 長埋 第 3-5 号	H24.11.12	24 教文 第 20-70 号
琵琶島遺跡 (H25)	H25.2.28	24 長埋 第 1-11 号	H25.3.7	24 教文 第 6-15 号	H25.8.2	25 長埋 第 4-3 号	H25.8.2	25 長埋 第 2-3 号	H25.8.2	25 長埋 第 3-3 号	H25.8.29	25 教文 第 20-51 号
壁田城跡 (H26)	H26.4.25	26 長埋 第 14-2 号	H26.5.8	26 教文 第 6-2 号	H26.7.18	26 長埋 第 17-5 号	H26.7.18	26 長埋 第 15-5 号	H26.7.18	26 長埋 第 16-5 号	H26.8.5	26 教文 第 20-41 号
ねごや遺跡 (H27)	H27.7.29	27 長埋 第 1-4 号	H27.8.12	27 教文 第 6-6 号	H27.10.19	27 長埋 第 4-5 号	H27.10.19	27 長埋 第 2-4 号	H27.10.19	27 長埋 第 3-4 号	H27.10.27	27 教文 第 20-60 号

第 2 表 受委託契約一覧

年度	埋蔵文化財発掘調査業務名	契約期間	契約額(円)	作業内容
H23	平成 23 年度 社会資本整備総合交付金(活力創出基盤整備)事業 笠倉～壁田その 1	H23.7.1～ H24.3.31	33,477,000	琵琶島遺跡：発掘作業(基礎整理作業)
H24	平成 23 年度 社会資本整備総合交付金(活力創出基盤整備)事業 笠倉～壁田その 4	H24.3.30～ H25.3.31	10,500,000	琵琶島遺跡：発掘作業(基礎整理作業)
	平成 24 年度 社会資本整備総合交付金(道路)事業 笠倉～壁田その 1	H24.7.2～ H25.3.29	35,423,000	琵琶島遺跡：発掘作業(基礎整理作業)
H25	平成 24 年度 社会資本整備総合交付金(道路)事業 笠倉～壁田その 8	H25.3.28～ H26.3.28	35,700,000	琵琶島遺跡：発掘作業(基礎整理作業)、 本格整理作業
H26	平成 25 年度 社会資本整備総合交付金(道路)事業 笠倉～壁田その 5	H26.3.28～ H27.3.27	24,948,000	琵琶島遺跡：本格整理作業 壁田城跡：発掘作業(基礎整理作業)
H27	平成 27 年度 社会資本整備総合交付金(道路)事業 笠倉～壁田その 1	H27.6.1～ H28.3.25	34,290,000	琵琶島遺跡・壁田城跡：本格整理作業 ねごや遺跡：発掘作業(基礎整理作業)、 本格整理作業 琵琶島遺跡・壁田城跡・ねごや遺跡：報告書刊行

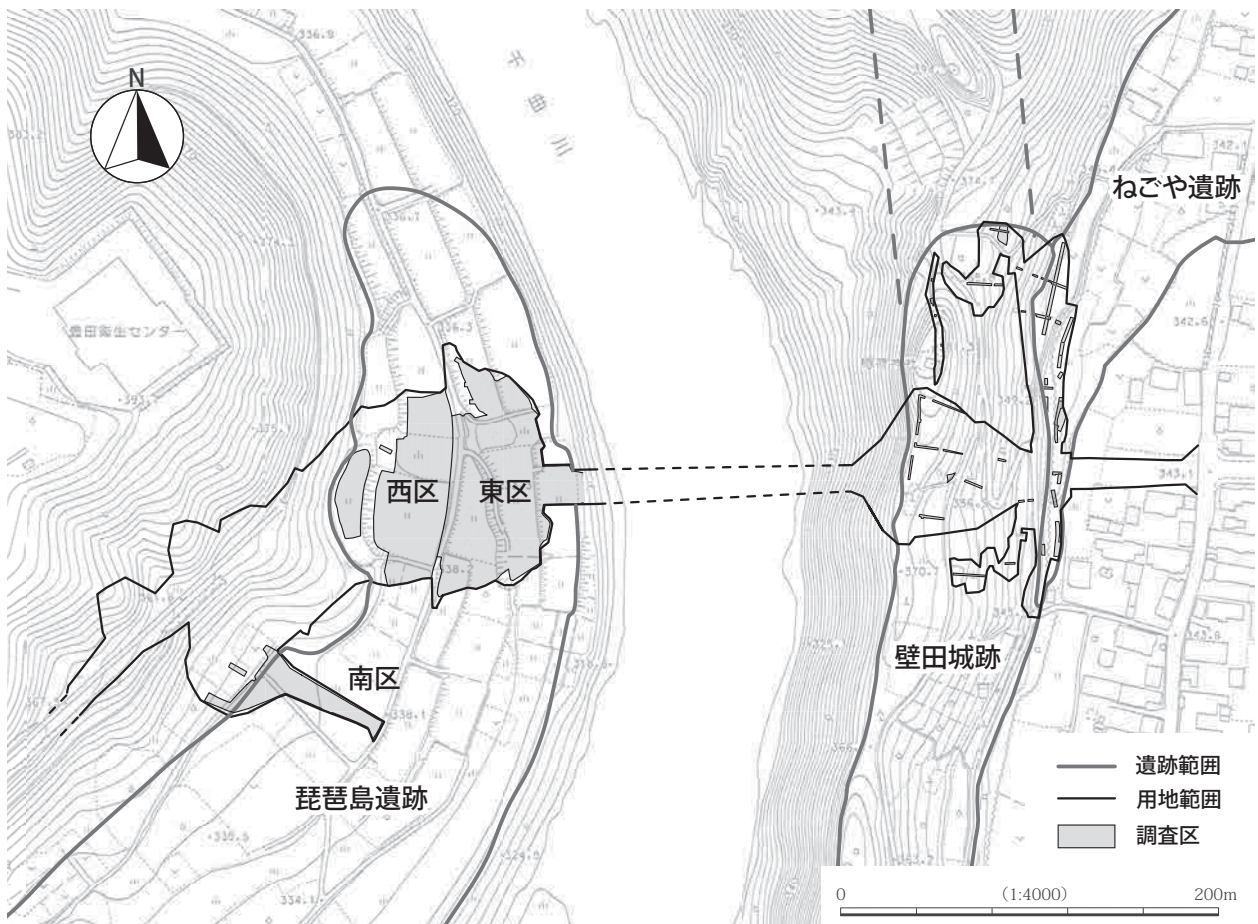
2 発掘作業と整理等作業の経過

(1) 発掘作業

琵琶島遺跡

中野市(旧豊田村)琵琶島遺跡は、弥生時代中期後半の集落遺跡(滝脇地籍)として知られていたが、平成22年度市教委による範囲確認のための試掘調査にともない、北側(大日影・滝脇地籍)に範囲が拡大した。今回は、その大日影・滝脇地籍を県道建設にともない、平成23年度から25年度の3か年にわたり発掘した。路線(本線および取付け道路)内の調査可能な範囲に調査区を設定した。農道(市道笠倉日影線)から山側の上位段丘上を西区、農道およびその東側の上位段丘から下位段丘にかけてを東区とした。

平成23年度は西区を調査し、東区は平成24年度にほぼ調査を終えたが、上位段丘上の南側一部分を平成25年度に調査した。取付け道路予定地である本線から離れた南区は平成25年度に調査した(第1図)。東区北側の農道との段差部分(第1図東区北側白抜き部分)は、段差の裾部縁までトレンチを入れ遺構・遺物がないことを確認し、安全上の理由から確認調査のみで面調査は行なわなかった。西区は、40cmほどの表土を重機で除去したのち遺構検出を行ない、柱穴状の遺構を多数検出した。平成24年度調査の東区は、農道およびその東側の上位段丘部分は西区と同様の調査状況が続き、柱穴状の遺構が検出された。西区と比較すると弥生時代を主体とする遺物が出土し、西区の遺構も含め検出された柱穴状の遺構の大半は弥生時代中期後半期に属する可能性が予想された。千曲川に近くなる東区の下位段丘は堆積層が厚くなり、中央部の限られたエリアではあるが遺物包含層であるⅢ層がa、b上下層に分けられ2面の調査となった。上層では平安時代を中心とする遺構・遺物が発見された(第14～17・19図 斜線表現の遺構)。平成25年



第1図 県道建設用地と発掘調査区

に調査した離れた南区は、中央から東側部分では西区と東区の上位段丘の検出状況と同様だが、中央から西側（山側）に向かっては徐々に堆積層が厚くなる。山からの崩落土が厚く堆積するが、弥生時代以前から沢状に凹んでいた可能性が高く、縄文時代前期～後期の遺物も出土している。弥生時代の遺物包含層の調査後、沢状地形の調査を行なう2面の調査となった（第41図）。

平成24年度には、石川県埋蔵文化財センター久田正弘主幹の指導を受け、周溝跡（平地建物跡）の存在と集落構造の特徴を考察した。平成24・25年度は、遺構の年代を確定するため、AMS法によるC14年代測定を行なった。また、東区の周溝跡、南区の沢状地形の珪藻分析、花粉分析を行ない、湛水状況、古植生環境を検証した。

発掘作業期間と調査面積は下記の通りである。3か年合計で、11,470㎡（17,412㎡）となる。

平成23年7月20日～12月12日	5,460㎡（7,500㎡）	（ ）は延べ面積
平成24年4月9日～10月31日	3,350㎡（6,700㎡）	
平成25年4月8日～7月31日	2,660㎡（3,212㎡）	

壁田城跡

調査区は城の主郭から南へ約650m離れた東側の傾斜地にあたり、わずかな平坦面が数か所点在していたため、中世山城の防御施設等の存在が予想された。県道建設にともない平成27年度に路線内（取付け道路部分含む）の発掘調査が計画された。平成26年度に、樹木伐採および搬出用道路部分の調査が事前に行なわれることとなり、あわせて用地内全体の内容確認のトレンチ調査800㎡を実施した。内容確認調査は、千曲川に向かって断崖を形成する西側の丘陵頂部から東側の低地部の範囲で、平坦面が存在する部分を中心に19本のトレンチを入れた（第99図）。

中世山城の平場、段差と考えられた平坦面は、近・現代（明治以降）に桑や果樹を栽培するために造成された畑地の平坦面であることが確認された。また、調査区北側の東側山裾部に設定したトレンチ（T13）からは、縄文時代早期前半の押型文土器片が1片出土した。さらに低地部（T18）では、黒色粘土層の上面から平安時代とみられる土器片の集中が認められ、遺構の存在が予想された。なお、低地部の土地利用、および古植生環境を調査するため、プラント・オパール分析を行なった。

壁田城跡に関わる施設が確認されなかったこと、また、城跡とは別時期の遺構・遺物が発見されたことから、遺跡を把握する市教委および県教委に概要を報告し、遺跡の取り扱いについて指示を受け、平成27年度の壁田城跡に係わる本格的な面調査の必要はないことが確認された。

発掘作業期間と調査面積は下記の通りである。

平成26年6月2日～7月15日	800㎡（内容確認トレンチ調査）
-----------------	------------------

ねごや遺跡

平成26年度の壁田城跡の内容確認（トレンチ調査）の結果、壁田城跡に関わる遺構は確認されなかったが、東側山裾部および低地部で確認された縄文時代、弥生時代および平安時代の遺物を出土した箇所については、市教委により周知の埋蔵文化財包蔵地として登録され壁田城跡の東側に位置する「ねごや遺跡」の範囲を拡大し、壁田城跡とは別の遺跡として扱うこととなった。

平成27年度、土器が出土した北側山裾部（1区）、低地部中央（3区）を中心に調査可能な箇所、T20～26のトレンチを掘削し、T18北側を面的に調査した。T18北側からは、平安時代の遺構（SQ01、SK01・02）と遺物が確認された。遺物が出土した黒色粘土層とその下部の灰色シルト層の層境で耕作の痕跡と思われる層の乱れる部分が認められた。畔などの水田関連遺構は確認されなかったが、平安時代の水田の可能性が高いと判断した。3区の出土遺物は調査区の北側に集中しており、南側には遺物が出土しなかったため、面調査は実施しなかった。3区北側以外では、平安時代の土器が少量出土したものの、遺構は確認されなかった。

発掘作業期間と調査面積は下記の通りである。

平成 27 年 9 月 1 日～ 10 月 19 日 2,568㎡

(2) 整理等作業

図面、写真、遺構等の台帳類作成、遺物の洗浄と注記等の基礎整理作業は、発掘作業年度の冬期間に実施した。

平成 24 年度は、遺構の年代を確定するため、AMS 法による C14 年代測定を行ない、検討した。また、周溝跡の埋土の珪藻分析、花粉分析を行ない、周溝内の湛水状況、古植生環境を検証した。

平成 25 年度には、図面類の編集作業、記録写真類の整理、および遺物の分類、接合・復元に着手した。また、ロクロガンナの応急的保存処理を行なった。

平成 26 年度は、遺物の分類、接合・復元を継続し、計測、実測、トレース、写真撮影、遺構図版作成などを開始した。土器の内容物を調査するため、土器表面に付着した食物の調理にともなう煮こぼれに由来する炭化物を試料として、炭素・窒素安定同位体比および総炭素量・総窒素量分析を行ない、あわせて C14 年代測定を実施した。また、土器文様の施文部のレプリカを顕微鏡観察した。

平成 27 年度は、遺物実測図のトレース、図版組、原稿執筆、報告書の印刷製本を行なった。

3 調査体制

発掘作業、整理等作業の調査体制は、以下のとおりである。

第3表 調査体制

年 度	所 長	調査部長	担当課長	本書関連作業の担当調査研究員
平成 23 年	窪田久雄	大竹憲昭	上田典男	町田勝則 前田一也
平成 24 年	窪田久雄	大竹憲昭	町田勝則	黒岩 隆 前田一也
平成 25 年	窪田久雄	大竹憲昭	町田勝則	綿田弘実 黒岩 隆 大澤泰智
平成 26 年	会津敏男	大竹憲昭	町田勝則	黒岩 隆 鶴田典昭
平成 27 年	会津敏男	平林 彰	町田勝則	黒岩 隆 鶴田典昭 小林伸子
平成 23～27 年度 発掘作業員				
池田道保 石井 博 大塚加津美 岡田千鶴 岡村文雄 久保 昇 小林七三男 小林伸子 坂本清一 柴草高雄 清水孝夫 高山いず美 田尻伸雄 土屋美晴 徳竹知徒 橋内賢裕 平尾恭子 丸山いつ子 藤沢豊治 古屋隆江 望月悦夫 山上知也				
平成 23～27 年度 整理作業員				
赤尾香苗 阿部高子 市川ちず子 猪股万里子 宇賀村節子 臼井博子 岡村美喜子 柄澤登紀子 北村マユミ 窪田 順 窪田 翔 倉科千文 倉島由美子 小林とも子 近藤朋子 島田茂子 清水栄子 高山いず美 田中邦男 鳥羽仁美 中澤克子 中澤ヒデ子 中村智恵子 西島典子 西村はるみ 日向富美子 原 恵美 平尾恭子 藤井裕子 宮澤理恵子 宮下正治 望月悦夫 柳原澄子				

4 調査日誌抄

(1) 発掘作業（基礎整理作業を含む）

【琵琶島遺跡】

平成 23 年度

7 月 20 日 笠倉・裕区民等へ発掘作業開始を周知。	10 月 5 日・12 日・19 日 琵琶島遺跡の縄文・弥生面の範囲について市教委との協議により、今年度調査区には縄文・弥生面が認められないと判断。
7 月 22 日～27 日 重機搬入路・プレハブ設置場所等の造成。	11 月 10 日 ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影。
7 月 28 日 重機にて表土掘削開始。	11 月 24 日 現場作業の終了。出土遺物の洗浄、図面整理を開始。埋戻し開始。
8 月 1 日 発掘器材の搬入。発掘作業員開始式。	11 月 30 日 発掘作業の終了。
8 月 11 日 性格不明の落ち込み (SX01) 検出。	
8 月 29 日 基準杭設定 (測量業務委託) 開始。	
9 月 6 日 掘立柱建物跡 (ST01 等)、土坑の調査開始。	

第1章 調査の経過と方法

- 12月 1日 笠倉・裕区等へ終了のあいさつ。区民等へ発掘作業終了を周知。
- 12月 5日 プレハブ・トイレの撤去。
- 12月 8日・9日 現況復帰完了。平成24年度プレハブ・駐車場設置場所の造成。
- 12月12日 重機等引き上げ、撤収完了。発掘作業完全終了。
- 1月 4日 基礎整理作業開始。遺構所見カード作成開始。記録図面類（割付図面、遺構個別図面）編集作業開始。
- 1月 5日 基礎整理作業員（2名）業務開始。写真記録類（写真の貼付・注記、台帳）整理開始。
- 1月16日～20日 北信合同庁舎にて発掘調査速報展（パネル展示）開催。
- 2月 1日 遺跡全体図作成。測量委託図面編集開始。
- 2月 6日 遺物注記開始。
- 3月16日 測量業務委託完了。
- 3月22日 基礎整理作業員業務終了。

平成24年度

- 4月 9日 重機搬入。表土掘削開始。
- 4月13日 プレハブ設置。トレンチ（深掘）掘削開始。
- 4月16日 発掘作業員開始式。発電機からプレハブへの電気配線工事。水道設置。
- 4月17日 発掘器材の搬入。東区南側の黒色土遺物包含層の掘下げ。
- 4月18日 東区北側の表土掘削開始。
- 4月24日 掘立柱建物跡（ST17等）5棟、土坑の調査開始（検出作業）。
- 5月 1日 基準点測量、方眼杭の打設（測量業務委託）開始。
- 5月21日 円環状の溝跡確認、その後、周溝跡（SD01）と認定。
- 5月24日 ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影（東区北側）。
- 5月31日 馬蹄形の溝跡確認、周溝跡（SD02）と認定。
- 6月 5日 千曲川側に「く」の字状に開く柵跡2列（SA01、SA02）検出。
- 6月18日 平成22年度市教委の試掘調査で確認された竪穴住居跡（SB01）、および、その北西側に小形で方形の竪穴住居跡（SB02）を検出。
- 6月26日 大形の馬蹄形の溝跡確認、周溝跡（SD03）と認定。
- 6月28日・29日 石川県埋蔵文化財センター久田正弘主幹、遺跡・遺構指導。
- 7月 2日 南側水田進入路部、表土掘削開始。
- 7月18日 竪穴住居跡（SB01）、残存部掘下げ開始。
- 7月24日 竪穴住居跡（SB02）、掘下げ開始。
- 7月27日 東西方向に主軸を持ち重なり合う掘立柱建物跡（ST24・25）を調査。
- 8月 7日 ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影（東区中央部）。地形測量。方眼杭の打設。
- 8月 9日 地元（笠倉・裕地区）向け「体験型遺跡現地説明会」開催。
- 8月28日 市道下（昨年度の続き）、北側から表土掘削開始。
- 9月24日～10月4日 東区南端の調査。
- 10月 1日～9日 北信合同庁舎にて、「琵琶島遺跡」発掘調査速報展（遺物・パネル展示）開催。
- 10月10日 市道下南端部、表土掘削。

- 10月24日 現場作業終了、埋戻し開始。出土遺物の洗浄、図面整理開始。
- 10月31日 発掘作業終了。プレハブ・トイレ撤去。
- 11月15日 埋戻し完了。最終立会確認。
- 11月20日 重機等引き上げ・撤収完了。笠原・裕区等へ終了のあいさつ。区民等へ発掘作業終了を周知。発掘作業完全終了。
- 12月12日 基礎整理作業員（2名）業務開始。C14年代測定業務委託実施（（株）加速器分析研究所）（2月8日完了）。
- 12月18日 遺跡全体図、地形図作成・編集（測量業務委託）打合せ（（有）測地）（3月15日完了）。
- 12月19日 珪藻分析、花粉分析業務委託実施（パリオ・サーヴェイ（株））（2月14日完了）。
- 12月20日 注記委託業務（第一合成（株））実施（2月15日中間検査、2月25日完了）。
- 2月28日 基礎整理作業員業務終了。

平成25年度

- 4月 8日・9日 琵琶島遺跡用地境界等に関する現地協議（北信建設事務所、泉埋文センター）。
- 4月 9日 重機搬入。
- 4月10日 東区、表土掘削開始。
- 4月12日 プレハブ・水道・発電機・トイレ設置、配線工事等。
- 4月15日 発掘作業員開始式。東区、検出作業開始。
- 4月16日 発掘器材搬入。東区、掘立柱建物跡（ST26）検出。プレハブ内設備工事（17日まで）。
- 4月19日 南区、表土掘削開始。
- 4月30日 東区、基準点測量、杭打ち（測量業務委託）。
- 5月 2日 東区、掘立柱建物跡（ST26）調査。
- 5月 9日 南区、遺物集中（SQ01）調査。
- 5月14日 東区、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影。東区、単点測量。南区、基準点測量、杭打ち。
- 5月15日 東区、地形測量。
- 5月20日 南区、深掘トレンチ調査。
- 5月22日 南区、西側 遺物包含層、検出、掘下げ。
- 5月29日 東区、埋戻し開始。
- 6月 6日 南区、遺物包含層より石匙（縄文時代前期の石器）出土。
- 6月11日 南区、単点測量。東区、埋戻し完了。
- 7月 2日 南区、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影。
- 7月 8日 南区、遺物包含層より有茎尖頭器（縄文時代草創期の石器）出土。
- 7月10日 南区、埋戻し開始。
- 7月19日 遺物注記・接合・復元開始。
- 7月26日 電気配線撤去。南区、埋戻し完了。
- 7月30日 発掘器材撤収。水道撤去。プレハブ解体。
- 7月31日 プレハブ撤去。発掘作業終了。
- 10月 1日 珪藻分析、花粉分析業務委託実施（（株）古環境研究所）（12月4日完了）。
- 10月 4日 C14年代測定業務委託実施（（株）加速器分析研究所）（12月3日完了）。
- 10月 7日 遺物・遺構・写真台帳作成開始。
- 11月15日 割付平面図編集、図面台帳作成開始。
- 12月 2日 基礎整理作業員（1名）業務開始。
- 12月 6日 鉄製品応急的保存処理業務委託実施（（株）文化財

- ユニオン) (3月5日中間検査、3月28日完了)。
 12月11日 測量業務委託に関する打合せ ((株)みすず総合コンサルタント) (2月27日委託完了)。
 2月12日～21日 北信合同庁舎にて発掘調査速報展 (パネル展示) 開催。
 3月20日 基礎整理作業員業務終了。

【壁田城跡】

平成26年度

- 6月2日 調査区現況確認。地元機関、壁田区長等へのあいさつ。プレハブ・トイレ設置。
 6月5日 器材搬入。
 6月9日 発電機設置。法面掘削作業員開始式。重機搬入。
 6月10日 基準点測量 (測量業務委託)。
 6月11日 T1～4掘削。
 6月13日 単点測量 (測量業務委託)。
 6月16日 T12南側、人頭大の礫集積部分拡張。
 6月20日 T5・6・10・12平面および断面単点測量。
 6月23日 T13・14・15・P4掘削。
 6月26日 鉄板搬入 (低地部)。北信建設事務所、T1～9の埋戻し状況確認 (中間検査)、同様の方法で今後のトレンチ埋戻しも実施する指示。
 7月1日 T11、2段目平場の性格追求のため、面的に遺構検出。
 7月2日 T18精査、平安時代土器片、集中して出土。
 7月3日 単点測量 (10月31日 測量業務委託完了)。
 7月4日 平成26年度壁田城跡発掘調査状況および来年度の調査に関する現地協議 (県教委、市教委、県埋文センター)。山裾部、低地部が来年度の調査対象地となる。
 7月9日 T18北壁よりプラント・オパール分析の土壌サンプル採取 (11月13日 分析業務委託完了)。
 7月10日 すべてのトレンチ、埋戻し終了。器材運搬。重機搬出。
 7月15日 プレハブ・トイレ撤去。現地引き渡し完了。地元機関、壁田区長等へ調査終了のあいさつ。発掘作業終了。
 1月6日 基礎整理作業員 (1名) 業務開始。写真整理、写真台帳作成開始。
 1月16日 図面整理、図面台帳作成開始。
 1月26日 遺物整理、遺物台帳作成開始。
 2月2日 遺物 (土器) 洗浄開始。
 2月23日 調査区の一部、遺跡名「ねごや遺跡」に変更。
 2月26日 注記マシーンによる遺物注記開始。
 3月20日 基礎整理作業員業務終了。
- 9月11日 遺物なし。
 T21でSD02を確認。須恵器蓋小破片出土。市教委視察。
 9月14日 T21でIV層群の丸太材サンプル採取。
 9月15日 1区 (T22) 調査。T21の5層上面に1区II層群 (遺物包含層) が載っているのを確認。
 9月18日 T23調査、断面記録後埋戻す。T21・23調査終了。
 9月24日 T24調査 (T23の延長部分)、地形変換点を確認。写真・図面記録後埋戻す。
 9月28日 T25調査、遺構・遺物なし。埋戻し。3区表土剥ぎ、暗渠 (SD03) 完掘。2区トレンチ範囲、3区セクションポイント単点測量 (測量業務委託)。
 9月29日 3区北側表土剥ぎ終了。3区で暗渠4条 (SD04～SD07) を検出。
 9月30日 3区SQ01掘下げ。SQ01遺物の単点側量。発掘だより1号発行。
 10月5日 SQ01、土師器甕破片まとめて出土。T26調査、遺物・遺構なし。
 10月6日 3区北側と中央部で土坑確認。調査期間の変更等について現地協議 (北信建設事務所、県埋文センター)、調査期間の短縮を決定。
 10月7日 SQ01aの下層に土坑を2基 (SK01・02) 確認。単点測量後取上げ。
 10月8日 3区南端部 (セクションE-Fの南側) の凹地掘下げ。3区壁面断面記録。3区単点側量。
 10月9日 作業員8名終了。
 10月14日 埋戻し、整地開始。
 10月16日 北信建設事務所による現場確認。
 10月19日 排土の分別作業 (木材と土を分別)。重機・鉄板撤収。発掘作業終了。現場管理を北信建設事務所に引渡す。
 10月20日 遺構図作成、整理開始。遺物台帳確認。
 10月23日 壁田区等へ終了のあいさつ。仮設水道・電気・トイレ撤去。発掘だより2号発行。
 10月26日 遺跡遠景写真撮影。図面・写真整理、台帳作成開始。壁断面図デジタルトレース開始。
 10月29日 プレハブ撤去 (立会)。
 10月30日 現場プレハブ撤去状況確認 (現場写真記録)。
 11月4日 個別遺構図、遺物出土状況図デジタルトレース開始。
 11月13日 遺跡全体図作成、編集開始。
 11月18日 土器注記。
 11月20日 土器接合。
 11月24日 土器実測・トレース開始。
 12月1日 基礎整理作業員 (2名) 業務開始。壁断面図編集開始。遺物図版編集開始。
 1月14日 測量業務委託完了、遺跡全体図等納品。
 3月10日 基礎整理作業員業務終了。

【ねごや遺跡】

平成27年度

- 9月1日 プレハブ・トイレ設置。発掘器材搬入。
 9月2日 用地杭の確認。仮設水道工事。重機搬入。
 9月3日 敷鉄板搬入。重機進入路造成。1区除草作業。基準点設定 (測量業務委託)。仮設電気工事 (～4日)。市教委へあいさつ。
 9月4日 1区トレンチ調査開始 (T20)。
 9月7日 T20調査。土師器甕等の遺物数点を確認。遺構なし。
 9月10日 2区トレンチ (T21)、重機による掘下げ開始。

(2) 本格整理作業

【琵琶島遺跡】

平成 25 年度

- 4月5日 本格整理作業員(2名)業務開始。
- 4月9日 割付平面図、個別断面図点検開始。
- 4月18日 写真点検開始。
- 5月7日 遺物選別・接合・復元開始。
- 6月19日 平成25年度本格整理費減額に関する協議(北信建設事務所、県埋文センター)、本格整理作業の実施内容変更で対応。
- 6月24日 台帳類確認・修正開始。
- 7月10日 土器観察・分類、遺物観察表作成開始(年度内、通年行なう)。
- 10月15日 写真台帳作成開始。
- 1月28日 基本土層断面図編集。
- 2月3日 石器注記開始。
- 2月12日～21日 北信合同庁舎にて発掘調査速報展(パネル展示)開催。
- 3月20日 本格整理作業員業務終了。

平成 26 年度

- 4月7日 本格整理作業員(3名)業務開始。
- 4月8日 土器実測開始。
- 4月11日 個別遺構図デジタルトレース開始。
- 4月16日 旧豊田村神田五六先生宅所蔵資料の資料調査。
- 4月17日 土器観察・分類、遺物観察表作成開始。
- 4月30日 全体図デジタル編集開始。
- 5月19日 石器観察開始。
- 6月9日 関連弥生時代遺跡の資料集成開始。
- 6月12日 土器拓本・断面実測開始。
- 8月19日 掘立柱建物跡(ST)組合せ検討、デジタルトレース編集開始。
- 8月26日 石器実測開始。
- 9月4日 掘立柱建物跡(ST)、長軸方位等分析開始。
- 9月10日 変更業務計画書の提出。
- 9月16日 掘立柱建物跡(ST)、竪穴住居跡(SB)、デジタルトレース編集、仮レイアウト開始。
- 10月14日 土器実測図、遺跡全体図分割、割付図レイアウト開始。
- 10月24日 炭素・窒素安定同位体比および総炭素量・総窒素量分析、C14年代測定業務委託((株)加速器分析研究所)実施(11月26日完了)。
- 11月6日 周辺の遺跡分布図作成開始。
- 11月12日 壁面土層注記入力開始。
- 11月20日 文化庁欄瓦田佳男主任文化財調査官、整理作業視察。
- 12月1日 市教委試掘資料の整理開始。
- 12月5日 石器実測図、仮レイアウト開始。
- 12月9日 北信建設事務所整備課による中間検査(県埋文センターにて)。
- 12月10日 復元土器の補強・着色開始。
- 12月19日 土坑(SK)個別遺構図の仮図版レイアウト開始。
- 12月24日 遺構写真図版、仮レイアウト作成。
- 1月16日 遺物写真撮影業務委託(信毎書籍印刷(株))実施(～2月16日)。明治大学中村由克客員教授、石器石材の観察・鑑定。
- 1月22日 遺物写真デジタル編集開始。

- 1月23日～2月20日 長野県埋蔵文化財センター出土品展「掘るしん」、鉄製品「ロクロガンナ」展示。
- 1月25日 明治大学石川日出志教授、弥生土器指導。
- 1月28日 遺構写真図版ページ仮版組。
- 1月30日 土器施文部観察業務委託((株)パレオラボ)実施(3月12日完了)。
- 2月5日 土器実測図のトレース開始。
- 3月9日～11日 琵琶島遺跡出土鉄製品についての資料調査(兵庫県淡路島ほか)。
- 3月20日 本格整理作業員業務終了。

【琵琶島遺跡、壁田城跡、ねごや遺跡】

平成 27 年度

- 6月1日 本格整理作業員(4名)業務開始。土器・石器実測図修正開始。土器実測図トレース開始。個別遺構図、遺跡全体図デジタルトレース、編集開始。
- 6月2日 石器実測図トレース開始。遺構法量計測、一覧表作成開始。土器観察表編集開始。遺物実測図・拓本、画像データ化開始。
- 6月3日 古墳時代中期の墓坑(SK191)遺物出土状況検討、遺構図編集。
- 6月9日 第1章仮版組開始。
- 6月23日 弥生土器「刻み」文様の観察開始。
- 7月3日 時代別グリッド土器分布図作成開始。
- 7月7日 科学分析(業務委託)結果のまとめ、編集開始。
- 7月9日 遺物写真図版(石器、土器)編集開始。
- 7月24日 基本土層図、壁断面図トレース、編集開始。
- 8月4日 壁田城跡、トレンチ壁断面図トレース、編集開始。
- 8月10日 遺構観察表(SK)編集。
- 8月17日 壁田城跡・ねごや遺跡、遺構写真仮版組開始。
- 10月26日 ねごや遺跡、写真・図面整理開始。
- 11月4日 ねごや遺跡、遺構図編集開始。
- 11月11日 長野県文化振興事業団市澤英利理事、弥生土器指導。
- 11月24日～12月2日 北信合同庁舎にて発掘調査速報展(パネル展示)開催。
- 12月17日 印刷・製本業者決定。
- 1月22日 原稿校正開始。
- 3月18日 報告書刊行。本格整理作業員業務終了。
- 3月19日 遺物・図面収納開始。



遺物写真撮影風景

第2節 発掘調査の方法

1 発掘作業の方法

(1) 遺跡記号と遺構記号

遺跡記号 県埋文センターでは、記録の便宜を図るため、遺跡名をアルファベット3文字で示す遺跡記号を用いている。1文字目は長野県を10分割した地区記号で、中野市、飯山市ほか須坂市以北の地区を示す「A」、2文字目および3文字目は遺跡名のローマ字表記2文字を選択したものである。各種記録類や遺物の注記に、以下の遺跡記号を用いた。各遺跡の遺跡記号は下記のとおりである。

○琵琶島遺跡 (BIWAJIMA) : 「ABJ」

○壁田城跡 (HEKIDAJYOSEKI) : 「AHD」

○ねごや遺跡 (NEGOYA) : 「ANG」

遺構記号 発掘調査では県埋文センターで定める以下の遺構記号にアラビア数字を付して遺構名とした。

SB: 2mを目安とし、それ以上の大きさの方形、円形、楕円形の掘り込み。

【竪穴住居跡、竪穴状遺構】

ST: SBより小さな落ち込みや石が一定間隔で方形、円形に配置するもの。これ以外の落ち込みと関係が認められるものがある。【掘立柱建物跡】

SD: 溝状の掘り込み。円形、馬蹄形にめぐる溝も含む。【溝跡、周溝跡】

SA: SBより小さな落ち込みや石が列として配置するもの。【柵跡】

SQ: 遺物が面的に集中するもの。【遺物集中、廃棄場ほか】

SK: 単独、もしくはほかの掘り込みとの関係が認められないSBより小さな掘り込み。

【土坑、落とし穴、貯蔵穴ほか】

穴: 土坑には認定できないが、土坑状に埋土が落ち込んだもの。【準土坑】

SF: 単独で存在し、火を焚いた跡が面的に広がるもの。および、炭化物の集中範囲。【火床、焼土跡】

SX: 以上に記した以外の不明遺構。【風倒木痕ほか】

(2) 調査グリッドの設定と呼称

国土地理院の平面直角座標系第Ⅷ系の原点を基点 (X= 0.0000、Y= 0.0000) に、200の倍数値を選んで東西方向、南北方向の測量基準線を設けた。これをもとに、調査対象範囲をカバーするようにグリッドを設定した。グリッドは大々地区、大地区、中地区、小地区の4段階に区分した(第2図)。

大々地区は、200m×200mの区画で、ローマ数字で示した。X= 86800.00、Y= -14200.00を基準として調査対象地区全体にかかる7区画を設定し、Ⅰ～Ⅶと表記した(第3図)。

大地区は、大々地区を40m×40mの25区画に分割したもので、北西から南東へA～Yまでの大文字アルファベットを用いた。

中地区は、大地区を8m×8mの25区画に分割したもので、北西から南東へ1から25の算用数字を用いた。遺構測量の基準、単位としたのがこの中区画である。基本となる1/20割付平面図1枚分の区画である。

小地区は、中地区内を16分割(2m×2m)したものである。北西から南東に1から16の算用数字を用いた。中地区がⅢF18の場合、小地区名はⅢF18-1、ⅢF18-2、・・・ⅢF18-16となる。さらに、遺物取上げ等の必要に応じて小地区を4分割(1m×1m)して第2図のとおり時計回りにa～dの記号を付した。

大々地区から中地区までのグリッド杭の打設は測量業者に委託して実施したが、小地区は中地区を基準に県埋文センターが設定した。座標値については、世界測地系(測地成果2011)の座標値を用いている。

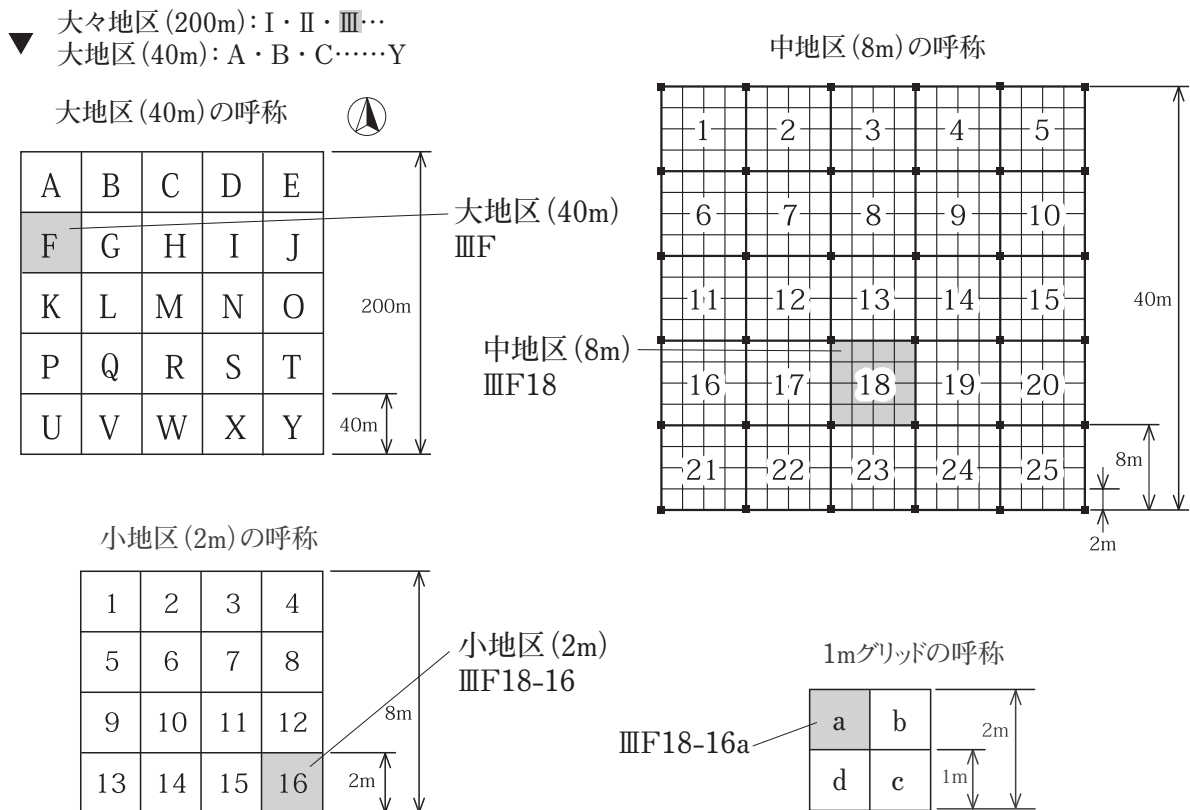
(3) 掘削および記録作成等

調査区の掘削 琵琶島遺跡の調査区は、基本的に表土を重機で除去し、基本土層Ⅲ層の遺物包含層を鋤簾、移植ゴテおよび両刃鎌で掘下げ、遺構検出を行なった。遺構検出は、調査区により多少異なるが、Ⅳ層下部からⅤ層上面で行ない、遺構の調査を実施した。調査面は基本的には1面であるが、東区中央部の限られた範囲ではⅢ層がa、b上下層に分けられⅢb層上面での調査も行ない、2面の調査となった。検出面で遺構の形状を確認したのち、セクションベルトを残し、移植ゴテおよび両刃鎌で掘下げた。終了した調査面は、下層の遺構・遺物の有無を再確認するため、重機による深掘りを行なった。琵琶島遺跡全体では、各区合わせて14か所におよぶ。

壁田城跡は、平成27年度の本格調査に先立って行なわれた内容確認のための調査であったため、山側の斜面部（平坦部含む）、山裾部（低地部含む）に幅1.5～2mのトレンチを19本、テストピット4坑を掘削する調査となった。トレンチは、重機の侵入可能な箇所は重機で行ない、それ以外の場所は危険をとまなう斜面部の調査ということもあり、特別に委託した法面掘削作業員が掘削を行なった。尾根部および斜面部からは、壁田城跡に関わる遺構・遺物は発見されなかったため、面調査は行なわないこととなった。

ねごや遺跡については、壁田城跡の内容確認調査の結果を受けて、市教委が範囲を拡大した部分について1～4区に分け、面調査および条件によってはトレンチ調査を実施した。1か所の面調査および7本のトレンチ調査は、重機により表土を除去し、鋤簾、両刃鎌で遺構検出を行なった。

遺物の取上げ 遺物は遺構ごとに出土層位で分けて取上げ、出土地点の記録が必要なものには遺構ごとの遺物番号を付して取上げた。番号は土器と石器を区別し、土器はP1、P2・・・、石器はS1、S2・・・と番号の前にPまたはSを付した。遺構に属さない遺物は8mグリッド単位で取上げた。金属製品、有機質等の脆弱な遺物は、脆弱遺物台帳を作成し管理した。



第2図 グリッド設定の方法



第3図 調査範囲とグリッド設定図

なお、墓坑の可能性のある SK191 の埋土は玉類等を抽出する目的で、SK361 は製鉄関連の鉄滓等を抽出する目的で、それぞれ 2mm、5mm 以上～1mm 以下メッシュの篩を用いた水洗選別によって、微細遺物の採取を実施した。SK191 は炭化物と土器片、石器剥片・碎片、SK361 は鉄滓、砂鉄を検出した。

SK191：下層（3層、4層） ※調査時には3層、4層に分層したが、分層基準が明確ではなく、報告のなかでは下層として一括にした。
SK361：1層、2層、2'層

遺構の記録 遺構平面図は、8m グリッドを基準に図面用紙に記録し、断面図もすべて図面用紙に記録した。遺構図は 1/20 の縮尺を基本とし、必要に応じて 1/10 の縮尺で測量した。また、トレンチ位置、調査区範囲、地形測量は、業務委託で実施した。

写真記録は、35mm モノクロ（・リバーサル）フィルム、6×7リバーサル・モノクロフィルム、一眼レフデジタルカメラを用いた。デジタル写真のファイル名は、遺跡記号と通し番号を組み合わせたものとし（ABJ0001、ABJ0002、・・・）、LAW データと JPG 形式のデータを保存した。また、遺跡全景などの空中写真は、業務委託によりラジコンヘリコプターで撮影された。

2 整理等作業の方法

(1) 遺物の整理

注記について 金属製品以外の土器、石器は、1cm 角以下程度の微細な資料を除き、すべてに注記をした。遺跡名は 3 文字のアルファベットで琵琶島遺跡：ABJ（BIWAJIMA）、ねごや遺跡：ANG（NEGOYA）、出土地点または層位は以下の略号を用いて注記をした。また、平成 22 年度中野市試掘資料については、独自の注記となり、先頭に 2010BYGM が付されている。なお、発掘時の遺物取上げ台帳（「遺物台帳」）に記載した注記内容は、各遺物観察表に掲載した。

注記に用いた略号

埋：埋土、覆土	床：床面、床直	柱：柱痕跡
検：検出面	べ：ベルト	土集：土器集中
黒上層：黒色土上面	中トレ：中野市トレンチ	カク：かく乱
表（Z）：表土、表採、排土、出土地不明	市：市道	西：西区

遺物管理番号について 遺構の時期・性格を決定し遺跡の特徴を記述するために、資料化が必要と判断した土器、土製品、および加工が認められるすべての石器、石核等について、個別に管理番号を付した。なお、平成 22 年度市教委による試掘調査出土資料についても合わせて番号を付した。これらの資料については、出土地点、器種、遺物の属性などを記載した「遺物管理台帳」（各遺物観察表が兼ねる）を作成した。管理番号は、以下の通りであるが、写真のみの掲載で実測図を掲載できなかった資料もある。

縄文時代～平安時代の土器・土製品 No.1～No.439
縄文時代～弥生時代の石器・石製品 No.1001～No.1115
ガラス製品 No.2001
金属製品 No.3001～No.3009

遺物整理の手順 ブラシを用いた水洗作業の後、注記マシンによる注記および手注記を行ない、土器、石器、金属製品と遺物の素材別に整理を進めた。

土器、土製品は、遺構別、グリッド別に、すべての資料を器種分類し、部位、時期、文様等を記録し、破片数と重量を計測した。接合作業は、遺構の当該グリッド出土土器を含めて遺構ごとを実施した。遺物包含層出土土器が多いため、グリッド出土土器のなかでも器形が推定できる土器は、ほかのグリッドとのグリッド間接合を実施した。

石器、石製品は、器種分類した後、石器類、石核、剥片、碎片の法量と重量の計測を行なった。剥片石器については、接合作業を実施した。接合作業は、石材別に調査区全体を対象に実施した。なお、石器群の石材分類は明治大学中村由克客員教授指導のもと、鶴田典昭が行なった。

金属製品は、発掘作業後はシリカゲルを入れてタッパーに保管し、長野県立歴史館の協力でX線撮影を行なった（平成25年10月24、25日実施）後、業務委託により応急的保存処理を行なった。

その後、管理番号を付したそれぞれの遺物の実測・トレース図を作成し、写真撮影（業務委託）を行ない、必要に応じて遺構図と合わせて編集、版組をした。

（2）遺構図の整理

発掘作業で図面用紙に記録した遺構図は、点検、編集をし、業務委託でデジタルトレースを行ない、グリッドごとに1/20で出力した（第2原図）。平面図は業務委託で作成したデジタルデータをもとに全体図、個別遺構図を作成し、断面図等は図面用紙に記録したものをIllustratorCS4・CS6を用いてデジタルトレースを行なった。

（3）写真記録の整理

発掘作業で撮影したフィルム写真は、調査年度別にアルバムに収納し、撮影内容を注記した。デジタル写真は、ハードディスクとDVDに記録し、琵琶島遺跡：ABJ0001～ABJ10302、壁田城跡：AHD0001～AHD0876、ねごや遺跡：ANG0001～ANG0398の通し番号をファイル名とし、ファイル名と撮影内容を記入した「写真台帳」を作成した。また、JPGファイルについては、ファイル名を撮影内容としたものを、別途作成し保存した。

遺物写真は、撮影日順に紙焼きカラー写真をアルバムに収納し、ファイル名を「遺物写真台帳」に登録した。6×7判カラーリバーサルフィルムはアルバムの最後にまとめて収納し、一眼レフデジタルカメラデータはDVDおよびポータブルハードディスクに記録した。

3 報告書の作成と資料の収納

（1）報告書の作成

報告書の本格的な編集作業は、平成26年度後半から着手した。琵琶島遺跡の項目は遺構と遺物に大きく分け、遺跡の特徴が理解しやすいように工夫した。また壁田城跡、ねごや遺跡の報告は調査方法を重視して記述した。完成した報告書は、国および都道府県、県内外市町村の埋蔵文化財関係機関、大学、地域の図書館等に配布する。

（2）資料の収納

遺物は、材質、種別ごとに報告書掲載遺物と非掲載遺物に分けたうえで、出土遺構、グリッド等の地点別にテンバコに収納し、「遺物収納台帳」を作成した。

実測図類は、遺構実測図、遺物実測図別に、通し番号（図面番号）を付けて「図面収納台帳」に登録し、図面ファイルに収納した。

写真は、遺構関係写真と遺物写真に分けて、「写真台帳」「遺物写真台帳」に登録しアルバムに収納した。デジタル写真データは、撮影内容をファイル名とし、DVDおよびポータブルハードディスクに記録した。

今回の発掘調査で得られた出土品、および実測図面・写真等の記録類は、報告書刊行後、長野県立歴史館または中野市教育委員会へ移管し、保管される予定である。

第3節 発掘調査の公開

遺跡を発掘している現場は、住民が地域の歴史に対して興味と関心を持ち、埋蔵文化財保護行政に対する理解を深めるうえで、たいへん重要な場である（文化庁2007）。この意味で発掘現場を公開することは、目的をよく理解し適切な手法を選択することで、大きな効果が期待できる。さらに近年では、遺跡見学者の「体感」を重視した手法として、「体験発掘」を併用する事例も増えてきている。

県埋文センターでも、遺跡現地説明会の開催に合わせ、状況に応じて発掘体験を盛り込んだ「体験型現地説明会」を行なっている。また発掘調査期間中は、月1回程度、地域住民や遺跡見学者向けに「発掘だより」を発行、県埋文センターのホームページに調査情報をタイムリーに公開している。さらには出土文化財をいち早く公開する目的で、地域公民館などの公共施設を利用して、発掘調査年ごと「発掘調査速報展」を開催、合わせて発掘調査の成果を「遺跡報告会」として公開している。

今回の発掘調査で、県埋文センターが実施した公開業務は第4表のとおりである。

第4表 琵琶島遺跡 壁田城跡 ねごや遺跡に係わる公開業務一覧

発掘調査年度 (調査遺跡)	発掘だより			HP	展示会・説明会等					
	番号	発行日	タイトル							
平成23年度 (琵琶島遺跡) 発掘作業	no.1	H23.8.8	発掘調査にむけて発掘準備完了する!!							
	no.2	H23.8.22	発掘調査 いよいよ開始!!	H23.8.17	H23.12.22 ~ 26	中野市裕地区生活改善センター 北信合同庁舎1Fロビー 長野県埋蔵文化財センター 長野県立歴史館	パネル展示			
	no.3	H23.9.6	遺構の検出 ぐんぐん進む!!	H23.9.28	H24.1.16 ~ 20		パネル展示			
	no.4	H23.9.22	いよいよ遺構の調査に入る!!	H23.12.1	H24.2.3		遺跡報告会			
	最終号	H23.12.12	琵琶島遺跡の概要	H23.12.21	H24.3.17 ~ 5.13		長野県立歴史館	長野県の遺跡発掘 2012		
no.5	H24.5.8	琵琶島遺跡は、弥生時代の遺跡!!	H24.4.26							
平成24年度 (琵琶島遺跡) 発掘作業	no.6	H24.5.18	調査区北側の田んぼから、大型蛤刃石斧が出た!!	H24.6.8	H24.7.28 ~ 8.19	伊那文化会館	長野県の遺跡発掘 2012			
	no.7	H24.6.8	調査区南側の田んぼから、さらに2本の大型蛤刃石斧が…!!	H24.7.17						
	no.8	H24.7.8	琵琶島遺跡に、縄文時代の痕跡はあるのか…?!							
	no.9	H24.8.22	体験型現地説明会開催される!!	H24.9.20				H24.10.1 ~ 9	北信合同庁舎1Fロビー	遺物・パネル展示
	最終号	H24.11.20	琵琶島遺跡の概要	H24.11.8				H25.2.1	長野県埋蔵文化財センター	遺跡報告会
平成25年度 (琵琶島遺跡) 発掘・整理等作業	no.11	H25.5.16	今年度の発掘調査はじまる	H25.5.1	H26.2.6 H26.2.12 ~ 21 H26.3.21 ~ 6.1	長野県埋蔵文化財センター 北信合同庁舎1Fロビー 長野県立歴史館	遺跡報告会 パネル展示 長野県の遺跡発掘 2014			
	no.12	H25.6.10	遺物包含層から石器が出た!!	H25.6.25						
	最終号	H25.8.9	琵琶島遺跡の概要	H25.10.1						
平成26年度 (壁田城跡・琵琶島遺跡) 発掘・整理等作業				H26.6.2	H26.7.19 ~ 8.24	伊那文化会館	長野県の遺跡発掘 2014			
					H27.1.23 ~ 2.20	長野県埋蔵文化財センター展示室	掘るしん			
					H27.2.25	長野県埋蔵文化財センター	遺跡報告会			
平成27年度 (ねごや遺跡・琵琶島遺跡・壁田城跡) 発掘・整理等作業	1号	H27.9.30	発掘調査開始	H27.5.1	H27.11.24 ~ 12.2 H28.2.14 ~ 19	北信合同庁舎1Fロビー 長野県埋蔵文化財センター展示室	パネル展示 掘るしん in しのい 2016			
	2号	H27.10.23	発掘調査終了	H27.11.30						

1 発掘だよりの発行

琵琶島遺跡は、人里離れた水田や果樹園等の農地内に所在する。「発掘だより」は、遺跡周辺にある中野市豊津笠倉地区(10組)、裕地区(4組)に対し回覧板として回覧。同様に、壁田城跡およびねごや遺跡



琵琶島遺跡の発掘だより

ねごや遺跡の発掘だより

が所在する壁田地区(13組)にも回覧を行なった。また発掘調査現場事務所には常備し、遺跡見学者に対して配布した。開発事業者や事業関係者にも周知し、発掘調査速報展や遺跡報告会等でも配布し発掘情報をできるだけ広く公開した。

2 体験型現地説明会の開催

本事業に係わる遺跡は、いずれも交通の便の悪い農地内あるいは山間地である。現地説明会を計画するにあたり、参加者のために確保できる駐車場は、徒歩で1時間以上の移動時間が必要となる。そこで遺跡に最も近接した笠倉地区、碓地区の住民のみを対象に説明会を実施した。説明会では体験発掘を取り入れ、遺跡の発掘の苦勞、土器発見の喜びなどを感じ取っていただいた。

平成24年8月9日(木)午前9:00～11:00まで実施。参加者は16名。



現地説明に聞き入る地元住民



体験発掘のようす

3 北信合同庁舎ロビー展の開催

「発掘調査速報展」は、遺跡の所在する地域での展示と全县を意識した広域展を行なった。地域展は、北信建設事務所の所在する長野県北信合同庁舎1階ロビーを利用し、年1回程度開催。この速報展の特色は、開発事業の計画内容も合わせて展示し、開発の目的と埋蔵文化財の保護が理解できるように工夫している。また広域展としては、長野県立歴史館および長野県伊那文化会館を会場に年1回それぞれで開催、広く県民に出土文化財を公開し、遺跡報告会を通じて情報伝達を行なった。



平成23年ロビー展



平成24年ロビー展

引用・参考文献

中野市教育委員会 2011 『琵琶島（滝脇）遺跡 隣接地試掘調査報告書—県道豊田中野線道路改良工事に伴う試掘調査—』
文化庁 2007 『埋蔵文化財の保存と活用（報告）—地域づくり・ひとづくりをめざす埋蔵文化財保護行政』：18

第2章 遺跡の環境と概要

第1節 遺跡の位置と地理的環境

本書で報告した3遺跡は、千曲川を挟んで、中野市豊津（旧豊田村）および中野市壁田の下記の地籍に所在する。上信越自動車道信州中野 IC から北西に約 6km、長野県北信合同庁舎から南西に約 1.2km の場所に位置する。琵琶島遺跡の調査地点は、遺跡南側の笠倉区と北側の砦区のちょうど中間地点に位置し、西側段丘上には豊田衛生センターがある。一方、壁田城跡とねごや遺跡の調査地点は、琵琶島遺跡調査地点の千曲川対岸に位置し、近くに中野市立長丘保育園・長丘小学校がある（第4図）。

琵琶島遺跡：中野市豊津 3547-1 ほか

壁田城跡：中野市壁田 1696 ほか

ねごや遺跡：中野市壁田 1412-イほか

千曲川は、中野市立ヶ花から飯山市蓮までの間、東を高丘・長丘丘陵、西を蟹沢丘陵、米山山塊、そして奥手山丘陵に挟まれ、流路は狭くなり大きく蛇行して北流する（第4・5図）。琵琶島遺跡は千曲川左岸の奥手山丘陵の裾野に広がる河岸段丘上（標高 320～340m 付近）、壁田城跡は右岸の長丘丘陵上（標高



第4図 遺跡の位置

381m 付近)、ねごや遺跡はその長丘丘陵の東側山裾部～低地部（標高 344m 付近）に立地する。なお、琵琶島遺跡の立地する河岸段丘は、比高 10m 以上で丘陵側の上位段丘と千曲川側の下位段丘に分かれる。

これらの丘陵は、いずれも更新世に形成された地層であり、凝灰角礫岩を主とし、泥岩、砂岩、礫岩等で構成され、相互に類似している。これらは千曲川を隔てているが、同一成因によって形成されたものと考えられる。2～4 万年前に隆起、褶曲によって生じた背斜部にあたり、東に急傾斜し西側が緩傾斜となる。千曲川は丘陵形成以前から現在の流路をとって流れており、地盤の隆起にともない激しく下刻作用が起こり現在のような峡谷を形成した。奥手山丘陵、長丘丘陵ともに上部に平坦面が多く残り、浸食のまだ進んでいない若い地形である。

琵琶島遺跡が位置する奥手山丘陵東麓（替佐峠の東麓）の千曲川に面した場所は、丘陵地帯の峡谷のなかでも、千曲川の最も著しい曲流部である。千曲川西岸の滑走斜面をなし、現在幅約 150m で、水田および果樹園に利用されている。壁田城跡の位置する長丘丘陵上は、森林および果樹園に、ねごや遺跡調査地点の長丘丘陵東側裾部・低地部は、水田、畑地、果樹園となっている。

遺跡範囲は『長野県中野市遺跡詳細分布図（改訂版）』（中野市教育委員会 2014）によるが、壁田城跡、ねごや遺跡の範囲については、「埋蔵文化財包蔵地の把握にかかる協議」（平成 26 年 12 月 4 日付け 26 中教第 540 号 教育長通知）に基づき、変更された範囲とする。その結果、両遺跡の境界部は第 1・3・4 図のとおり定められた（註 1）。そのうち調査した範囲は、県道建設用地にかかる限られた部分のみであり、琵琶島遺跡の場合は遺跡北側の平成 22 年度市教委試掘調査による範囲拡大部分、壁田城跡は主郭から南へ約 650m 離れた丘陵上・東側斜面部分、ねごや遺跡は遺跡範囲が南側に拡がり、従来の壁田城跡の遺跡範囲を一部編入した丘陵東側山裾・低地部分である（第 1 図）。



第 5 図 調査遺跡周辺の鳥瞰図（1：琵琶島遺跡 2：壁田城跡 3：ねごや遺跡）

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

琵琶島遺跡(40)、壁田城跡(31)、ねごや遺跡(34)からは、縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代の遺物が出土し、特に、琵琶島遺跡出土の弥生時代中期後半栗林式土器が遺物の大半を占める。そこで、当該時代を中心に周辺の遺跡を概観し歴史的環境をまとめる。琵琶島遺跡ほか2遺跡周辺の中野市、小布施町、長野市豊野(一部、飯山市南部、飯綱町東部含む)の千曲川兩岸の遺跡を中心とした分布図を第6図に示した。図中の番号は第5表および以下の文章の括弧内の番号に対応する。さらに、今回の調査成果の主体となる弥生時代中期については、第7図に長野盆地北部・飯山盆地の遺跡分布図を示し、詳細は第7章で記述する。

旧石器時代：今回の調査遺跡からは旧石器時代の遺物は出土しなかったが、長野市北部から飯山市にかけての千曲川兩岸の丘陵上には、旧石器時代の遺跡が点在している。千曲川左岸の長野市南曾峯遺跡(237)、右岸の高丘丘陵上の中野市沢田鍋土遺跡(126)、がまん淵遺跡(141)、牛出窯跡(99)、茶臼峯窯跡(111)などでブロックが確認されている。このほか、中野市立ヶ花表遺跡(136)、浜津ヶ池遺跡(90)、安源寺遺跡(106)などでも旧石器時代の石器群が出土している。沢田鍋土遺跡、がまん淵遺跡の石器群は長野県最古段階と位置づけられている(中島1997、大竹2010)。また、今回の調査遺跡に近い、中野市大日影遺跡(33)、峯遺跡(41)、陣場遺跡(43)で尖頭器が出土したとされるが、詳細は不明である。

縄文時代：琵琶島遺跡、ねごや遺跡からは、縄文時代草創期～後期前半の土器が出土し、前期、後期の土器が他時代の土器よりも若干出土量が多かった。石器類に関しては、縄文時代のものが大半を占めると考えられるが、一部を除き時期は不明である。そこで、今回の調査遺跡の当該時代を中心として、第6図の範囲を超える遺跡も含め、千曲川流域の縄文時代の遺跡を概観する。

草創期では、飯山市カササギ野池遺跡で爪形文系土器が、小佐原遺跡、北竜湖遺跡、木島平村三枚原遺跡で表裏縄文土器が出土している。千曲川流域からは離れるが、長野県北部(北信地方)では、信濃町野尻湖遺跡群で、隆起線文系土器、爪形文系土器、円孔文系土器、多縄文系土器などが多数出土しているほか、高山村湯倉洞窟、須坂市石小屋洞穴などの群馬県境付近の山地部で草創期の良好な資料(隆起線文系、爪形文系、円孔文系、多縄文系土器など)が出土している。琵琶島遺跡出土の爪形文系土器は、中野市内初の資料である。石器では有茎尖頭器がみつかり、当該期の資料と思われる。

早期には、木島平村三枚原遺跡、高山遺跡、飯山市トトノ池南遺跡などで押型文系土器、中野市がまん淵遺跡、飯山市新堤遺跡などで沈線文系土器が比較的まとまって出土している。中野市月夜岳遺跡、長野市明神前遺跡、立石ヶ丘遺跡(224)などでは押型文系土器がわずかに採集されている。琵琶島遺跡からは、撚糸文系土器、楕円・山形の押型文系土器が出土しており、石器は特殊磨石1点が当該期の資料となろう。また、ねごや遺跡からも楕円押型文系土器が検出された。

前期では、前半期の竪穴住居跡が長野市浅川扇状地遺跡群で散見され、飯山市有尾遺跡に有尾式期の住居跡がある。後半期には、長野市上浅野遺跡で環状集石群が確認されている。また、千曲川上流の長野市松原遺跡では地表下約5mから前期の集落跡が確認されている。千曲川下流の中野市立ヶ花遺跡(115)、南大原遺跡(89)、飯山市有尾遺跡、大倉崎遺跡、瀬附遺跡で竪穴住居跡が確認されている。なお、南大原遺跡、有尾遺跡は前期土器型式の標式遺跡である。琵琶島遺跡からは、繊維を含む前半期の土器が数点、後半期は大倉崎遺跡出土の格子目文系土器に類似する土器(寺崎2011)をはじめとして羽状縄文系を中心とした土器群がややまとまって出土している。

中期の千曲川下流域では、中野市栗林遺跡（94）、姥ヶ沢遺跡（68）、宮反遺跡（66）、千田遺跡（63）、柳沢遺跡（18）、飯山市深沢遺跡（2）、飯綱町上赤塩遺跡などで集落跡が確認されている。また、中野市風呂屋遺跡（65）では中期前葉の土器がまとまって出土し、長野市明神前遺跡で中期後葉を中心に多数の遺物が採集されている。上赤塩遺跡、風呂屋遺跡では中期前葉の北陸系土器が、千田遺跡では中期中葉の火焰型土器や東北系（大木式）の土器が、栗林遺跡では関東系（加曾利E式）の土器が出土するなど、他地域の異系統の土器が入り込んでいる。また、姥ヶ沢遺跡ではほぼ完全な形に復元される土偶が、千田遺跡では240点の土偶が出土している（中野市教育委員会1983、長野県埋蔵文化財センター2013b）。なお、中野市沢田鍋土遺跡（126）の信越自動車道建設に伴う調査では中期後葉の粘土採掘跡が発見されている（長野県埋蔵文化財センター1997）。琵琶島遺跡の中期土器は、半截竹管による沈線文、指頭圧痕文を施文した初頭の土器、加曾利E3式、およびLR横縄文を施した後葉の土器が数点みられる。

後期には、中野市栗林遺跡、飯山市東原遺跡などの集落跡と、石棺墓群などの墓域が確認された千田遺跡、飯山市宮中遺跡などがある。栗林遺跡では、貯蔵穴、水さらし場などの施設が発見されている。このほか、中野市飯綱平遺跡（37）、南大洞遺跡（64）、風呂屋遺跡、山根遺跡（87）、田上寺の前遺跡、新野遺跡（191）などで後期の土器が発見されているが、中期に比べ遺跡数は少なくなる。なお、中野市沢田鍋土遺跡では堀之内1式期、飯綱平遺跡では加曾利B1式期の粘土採掘跡が確認されており、長野県内では縄文時代の粘土採掘跡の数少ない資料である（豊田村教育委員会2005、長野県埋蔵文化財センター1997）。琵琶島遺跡には、後期初頭の称名寺式、中越地方を中心に出土する三十稲場式、後期前葉の堀之内1式の深鉢の破片がみられる。

晩期には遺跡が少なく、集落跡は確認されていない。長野市南曾峯遺跡（237）、立石ヶ丘遺跡（224）、中野市牛出遺跡（93）、山根遺跡（87）、南大洞遺跡、千田遺跡、替佐遺跡群（51）、飯山市山ノ神遺跡などで晩期の遺物が確認されている。特に、山ノ神遺跡でまとまった土器が出土しており、その中に「魚形線刻画土器」がみられる。今回の調査遺跡からは、晩期の出土遺物はない。

弥生時代：千曲川流域には、中期後半（栗林式）から後期（吉田式、箱清水式）の集落跡が多数確認されている。上流に南曾峯遺跡、立ヶ花城跡（135）、安源寺遺跡（106）、栗林遺跡、南大原遺跡（89）、下流に替佐遺跡群、千田遺跡、柳沢遺跡、飯山市小泉遺跡、上野遺跡などの中期後半から後期の集落跡が点在する。中期後半と後期の集落跡が同じ場所に営まれる例はみられず、同じ遺跡内でも地点を異にする傾向にある。そのなかで特に、栗林遺跡は栗林式土器の標識遺跡であり県史跡に指定され、柳沢遺跡から銅戈、銅鐸がまとまって出土した。これらの主要な大遺跡は千曲川に沿って5～7km間隔に位置している。このほか、笠倉遺跡（38）では有孔石剣（石戈）、七瀬遺跡（80）では木製農具など弥生時代中期後半の希少な遺物がみつまっている。また、長丘丘陵の東側に広がる夜間瀬川等の扇状地上には、新野遺跡（191）、間山遺跡（194）、西条・岩船遺跡群（152）などの集落遺跡が確認されている。その後、がまん淵遺跡（141）、七瀬遺跡などのように北陸系土器が確認される後期の遺跡が登場するようになる。がまん淵遺跡は、北陸地方にみられる斜面中腹に環濠を備えた、高地性防御的集落と評価されている。安源寺遺跡では、弥生時代後期と考えられる粘土採掘跡が確認されている。

琵琶島遺跡周辺では、中期後半（栗林式期）以降の弥生時代の集落跡は見つまっているが、栗林式期に先行する中期前半の集落跡は確認されていない。琵琶島遺跡は周知の栗林式期の遺跡であったが、平成22年に新たに追加された範囲である遺跡北側の今回の調査区へも栗林式期の集落跡が広がっていることが明らかとなった。さらに、栗林式でも古段階となる栗林1式を中心とする遺跡であることがわかり、栗林式土器成立に係わる新資料が加わることとなった。千曲川上流の南大原遺跡、替佐遺跡群、下流の柳沢遺跡の新段階の栗林期に先行する時期に当たり、長野市南曾峯遺跡と後半部分は時期を同じくする（豊野

町誌刊行委員会 2001、長野県埋蔵文化財センター 2012b)。

古墳時代：中野市から飯山市にかけての千曲川沿岸では、右岸の中野市牛出窯跡 (99)、牛出遺跡 (93) で前期、栗林遺跡 (94) で中期の集落跡が調査されている。また左岸上流の長野市立石ヶ丘遺跡 (224) など前期の土師器が出土しており、これらのなかには北陸系や東海系の土器が認められる。下流左岸の中野市替佐遺跡群 (51)、千田遺跡 (63) など、前期と後期の竪穴住居跡が確認されている。千曲川に流れ込む夜間瀬川など扇状地上には、新野遺跡 (191) や神宮寺下遺跡 (24) など中期から後期の集落跡が確認されている。このほか、前期の粘土採掘跡が見つかった沢田鍋土遺跡 (126)、中期の祭祀遺跡とされる新井大口遺跡 (61) がある。

古墳では、弥生時代終末から古墳時代初頭とされる安源寺城跡 (103) の前方後方形墳丘墓、安源寺遺跡 (106) の前方後方形周溝墓が、千曲川下流域、善光寺平 (長野盆地) 北部である当地域の古墳成立過程を考えるうえで注目される。また、千曲川右岸の長丘丘陵上には、中畝 (53～57)、林畔 (69、70)、七瀬 (73～77)、高山 (122、123) などの古墳群がみられたが、工事等で消滅した古墳も多い。西山古墳 (129)、京塚古墳 (130) など調査された古墳もあるが、詳細は明らかにされていない。さらに、上記の中期古墳で前方後円墳の七瀬双子塚古墳 (73) からは円筒埴輪が出土し、林畔1号古墳からは馬具、鋌留短甲が出土した。中野市南東部山地の尾根突端には、善光寺平最古段階の前方後方墳の蟹沢古墳 (212)、発掘調査で東日本最古級の前方後円墳であると評価されている高遠山古墳 (181) があり、6世紀代の合掌形石室をもつ金鑑山古墳 (188) も存在する。千曲川西岸では、銀象嵌のある直刀鏢を出土した長野市南曾峯古墳 (239)、7世紀代の中野市風呂屋古墳 (82) などが確認されている。後期古墳は千曲川西岸の丘陵部にまとまっているようである。

琵琶島遺跡では、前期の土器が少量出土するほか、ロクロガンナを副葬し墓坑上部に土器を破碎供献した中期の木棺墓が1基検出されている。

奈良・平安時代：琵琶島遺跡からは平安時代前期の黒色土器を廃棄した土坑、鍛冶滓 (片) を廃棄した土坑を検出した。さらに焼土跡などの遺構とともに平安時代後期の墨書土器が2点出土している。また、ねごや遺跡では平安時代の須恵器、土師器がまとまって出土する地点を数か所調査した。

周辺の遺跡をみると、奈良時代では、中野市壁田遺跡 (30)、替佐遺跡群 (51)、沢田鍋土遺跡などで集落跡が調査されている程度で、発見例が少ない。平安時代では、牛出遺跡、栗林遺跡、安源寺遺跡、風呂屋遺跡 (65)、替佐遺跡群、飯綱平遺跡 (37)、宮反遺跡 (66) など千曲川沿いにある遺跡と、西条・岩船遺跡群 (152)、上小田中遺跡 (169)、新野遺跡 (191)、間山遺跡 (194)、小布施町中子塚遺跡 (253) など千曲川に流れ込む河川の扇状地上に遺跡が確認されている。

千曲川上流右岸の丘陵上に高丘丘陵古窯址群が広がっており、発掘調査等で7世紀末～9世紀の須恵器の窯跡が51基確認されている。これらの窯跡は、茶臼峯、立ヶ花、立ヶ花表、牛出などの支群に分かれている (長野県埋蔵文化財センター 1997・2013a)。その中には「高井」、「佐玖郡」などの刻書のある須恵器が発見された清水山窯跡 (127)、瓦陶兼用窯がある池田端窯跡 (118) など奈良時代の窯跡が多く見ついている。また、沢田鍋土遺跡では奈良時代の土器製作の工房跡、池田端窯跡では粘土採掘跡が確認されている。

中世・近世：中世には安源寺城跡、北城城址 (81)、南城城址 (86)、立ヶ花城跡 (135)、手子塚城跡 (235)、草間城跡 (143)、茶臼峯砦跡 (112) などの山城と、大俣城跡 (67)、風呂屋居館址 (83)、内堀館跡 (88)、牛出城跡 (114)、大久保館跡 (121) などの館跡またはその推定地がある。

註

- 1) 市教委は、平成26年1月6日付け25中教第600号(教育長通知)により壁田城跡の範囲を水路以西まで拡大した。平成26年度の県埋文センターの調査により、拡大した範囲から城郭とは異なる時期(縄文時代、弥生時代、平安時代)の遺物が確認された。その結果に基づき、市教委は、平成26年10月27日、埋蔵文化財包蔵地の範囲を確認するため、壁田城跡東側(水路以東)の隣接地をトレンチ調査し範囲を確定した。最終的には、ねごや遺跡の範囲を南側に拡大し、壁田城跡の拡大した範囲の一部をねごや遺跡へ編入することとなった。

引用・参考文献

- 大竹憲昭 2010 「竹佐中原遺跡石器文化」の時代性に関して(予察) 『長野県竹佐中原遺跡における旧石器時代の石器文化Ⅱ』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書85:347-353
- 小布施町教育委員会 1987 『長野県上高井郡小布施町遺跡詳細分布図』
- 神田五六 1963 「豊田村の古代文化」 『豊田村誌』豊田村誌刊行会:243-269
- 寺崎裕助 2011 「越後の縄文前期後半期土器研究の展望」 『第24回縄文セミナー 縄文前期土器研究の現状と課題』:45-73
- 豊田村教育委員会 2005 『飯綱平遺跡Ⅱ 飯綱平住宅地造成工事に伴う発掘調査報告書』
- 豊野町誌刊行委員会 2001 『豊野町誌 豊野町の資料(一)』
- 中島庄一 1997 「高丘陵における中期・後期旧石器時代移行期から後期前半期の石器群-がまん淵遺跡を中心として」 『飯田古屋敷遺跡・玄照寺跡遺跡・がまん淵遺跡他』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書24:398-417
- 中野市教育委員会 1983 『姥ヶ沢』
- 中野市教育委員会 2006 『長野県中野市遺跡詳細分布図』
- 中野市教育委員会 2014 『長野県中野市遺跡詳細分布図(改訂版)』
- 中野市誌編集委員会 1981 「中野地方の地形展望」 『中野市誌(自然編)』:24-27
- 長野県史刊行会 1981 『長野県史 考古資料編 遺跡地名表』
- 長野県埋蔵文化財センター 1997 『飯田古屋敷遺跡 玄照寺跡 がまん淵遺跡 沢田鍋土遺跡 清水山遺跡 池田端窯跡 牛出古窯遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書24
- 長野県埋蔵文化財センター 2012a 『長野県埋蔵文化財センター年報』28
- 長野県埋蔵文化財センター 2012b 『南曾峯遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書93
- 長野県埋蔵文化財センター 2012c 『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書100
- 長野県埋蔵文化財センター 2013 『長野県埋蔵文化財センター年報』29
- 長野県埋蔵文化財センター 2013a 『沢田鍋土遺跡 立ヶ花表遺跡 立ヶ花城跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書94
- 長野県埋蔵文化財センター 2013b 『中野市千田遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書98
- 長野県埋蔵文化財センター 2013c 『中野市川久保・宮沖遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書99
- 長野県埋蔵文化財センター 2014 『長野県埋蔵文化財センター年報』30
- 長野県埋蔵文化財センター 2015 『長野県埋蔵文化財センター年報』31
- 牟礼村教育委員会 2000 『牟礼村遺跡詳細分布調査報告書』
- 弓削春穂 1963 「地形地質」 『豊田村誌』豊田村誌刊行会:1-29



第6図 周辺の遺跡分布図

第5表 琵琶島遺跡周辺遺跡一覧

掲載 番号	市町村	市町村 番号	遺跡名	旧 石器	縄 文	弥 生	古 墳	古 代	中 世	近 世	備考（発掘調査歴）
1	飯山市	146	上組			○					
2	飯山市	147	深沢		○						1963・1964・1965・1993調査
3	飯山市	306	蓮城						○		
4	中野市	242	深沢城跡						○		
5	中野市	217	鴨田		○						
6	中野市	228	永江城址						○		
7	中野市	216	北永江		○						
8	中野市	241	永井館跡						○		
9	中野市	214	八号堤		○	○		○			1994調査
10	中野市	213	大谷地		○			○			1994調査
11	中野市	215	稲沢		○						
12	中野市	237	碓の城の峯跡						○		
13	中野市	238	名立				○	○			
14	中野市	179	小丸山古墳				○				
15	中野市	166	古牧			○					
16	中野市	177	八幡塚古墳				○			○	
17	中野市	178	塚穴古墳				○				
18	中野市	176	柳沢		○	○		○		○	2006～2008調査
19	中野市	180	棚平旗塚						○		
20	中野市	175	赤岩古墳				○				推定位置(墳丘は破壊)
21	中野市	174	七ッ鉢		○						
22	中野市	173	村林	○							
23	中野市	172	神宮寺				○	○			
24	中野市	171	神宮寺下			○	○				1958・1971・2010調査
25	中野市	170	梵天	○	○						
26	中野市		笠原の立						○		
27	中野市	169	きつね塚								塚状遺構（時期不明）
28	中野市	168	屋敷添		○						
29	中野市	167	関上		○						
30	中野市	163	壁田（含、壁田宮下遺跡）		○	○		○	○		1971調査
31	中野市	161	壁田城跡						○		2014調査
32	中野市	211	袖久保（含、日向遺跡）		○						
33	中野市	212	大日影	○							
34	中野市	162	ねごや		○	○		○	○		2015調査
35	中野市	82	笠原			○				○	石積み遺構
36	中野市	208	飯綱平北		○						
37	中野市	207	飯綱平（含、袖山遺跡）		○			○	○	○	1992・2004調査
38	中野市	209	笠倉（含、川端遺跡）		○	○	○	○	○	○	2011・2012調査
39	中野市	236	笠倉館（森の家）跡						○	○	2011・2012調査
40	中野市	210	琵琶島（滝脇）		○	○	○	○		○	1949・1956・2011～2013調査
41	中野市	158	峯	○							
42	中野市	156	山の神古墳				○				（市史跡）1948調査
43	中野市	157	陣場	○	○	○					
44	中野市	160	赤畑古墳				○				
45	中野市	159	永峯古墳				○				
46	中野市	80	間長瀬				○				
47	中野市	81	笠原向フ原				○				金井向フ原遺跡を改称
48	中野市	205	飛山（含、飛山古墳）		○	○			○		飛山古墳は古墳ではなく中世の塚 1994調査
49	中野市	204	替佐城跡						○		（市史跡）
50	中野市	235	対面所						○		1995調査
51	中野市	206	替佐遺跡群（川久保・宮沖・堰添・小宮）		○	○	○	○	○	○	1966・2004～2007調査
52	中野市	153	三ツ又		○						
53	中野市	154	中畝1号古墳				○				1987調査 消滅
54	中野市	155	中畝2号古墳				○				1987調査 消滅
55	中野市	155-2	中畝3号古墳				○				1986調査 消滅
56	中野市	155-3	中畝4号古墳				○				1986調査 消滅
57	中野市	155-4	中畝5号古墳				○				1986調査 消滅
58	中野市	231	田麦						○		
59	中野市	79	新井向原						○		
60	中野市		金井陣屋						○		
61	中野市	78	新井大ロフ				○				1969調査
62	中野市	83	竹原		○						
63	中野市	203	千田		○	○	○		○	○	2002・2003・2005～2007調査
64	中野市	202	南大洞		○	○					
65	中野市	200	風呂屋		○	○		○	○		1994調査
66	中野市	149	宮反		○	○		○			1983・1984調査
67	中野市	150	大俣城跡						○		
68	中野市	148	姥ヶ沢		○	○	○				1982調査
69	中野市	151	林畔1号古墳				○				（市史跡）
70	中野市	152	林畔2号古墳				○				1948調査

第2章 遺跡の環境と概要

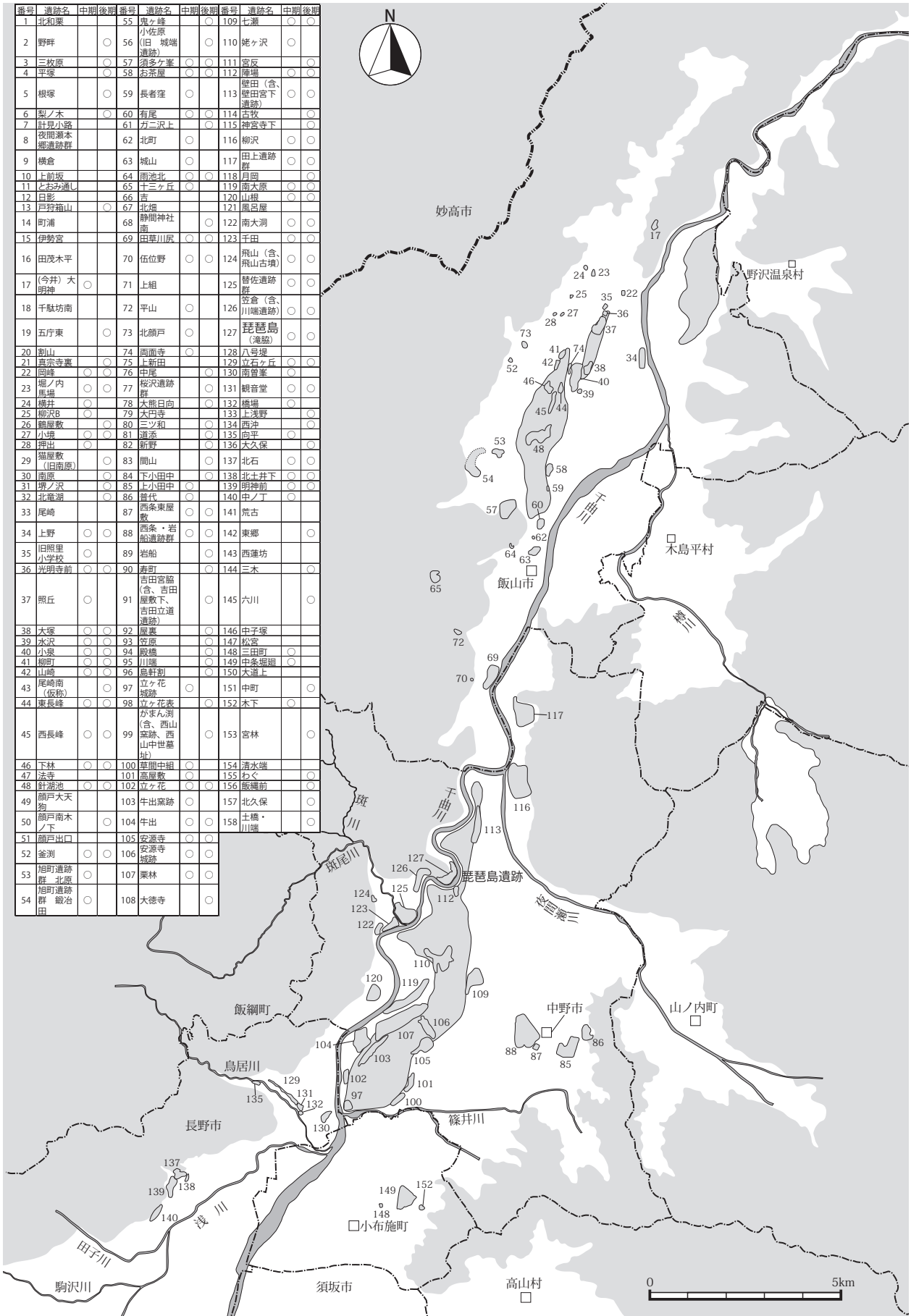
掲載 番号	市町村	市町村 番号	遺跡名	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	古 代	中 世	近 世	備考（発掘調査歴）
71	中野市	144	七瀬北原墓址						○		七瀬4号古墳消滅のため改称 1988調査
72	中野市	147	棚畑					○	○		
73	中野市	139	七瀬双子塚古墳				○				(県史跡)
74	中野市	140	七瀬1号古墳				○				
75	中野市	141	七瀬2号古墳				○				1986調査 消滅
76	中野市	143	七瀬3号古墳				○				1988調査 消滅
77	中野市	145	七瀬5号古墳				○				1987調査 消滅
78	中野市	142	前山古墳				○				1975調査 消滅
79	中野市	146	寿徳寺跡						○		
80	中野市	138	七瀬	○	○	○	○	○	○		1983・1991・1992・1994調査
81	中野市	199	北城城址						○		
82	中野市	233	風呂屋古墳				○				1994調査 消滅
83	中野市	201	風呂屋居館址						○		
84	中野市	198	寺窪窯址					○			1991調査
85	中野市	227	西山根	○							
86	中野市	234	南城城址						○		
87	中野市	197	山根		○	○		○			
88	中野市	232	内堀館跡						○		(県史跡) 2006調査
89	中野市	196	南大原		○	○	○	○			1951・1957・1979・2011～2013調査
90	中野市	135	浜津ヶ池	○	○			○			1987・1994調査
91	中野市	137	大徳寺			○	○	○			
92	中野市	195	菰山	○						○	1994調査 鬼坂遺跡を改称
93	中野市	122	牛出		○	○	○	○	○	○	1994～1996調査
94	中野市	134	栗林	○	○	○	○	○	○	○	(県史跡) 1948・1950・1965・1969・1977・1979～1981・1983・1987・1991・1992・1994～1999調査
95	中野市	133	光海寺跡 (三ヶ寺跡)						○		
96	中野市	129	小丸山古墳				○				
97	中野市	125	から池					○	○		
98	中野市	119	立ヶ花・上川端	○							
99	中野市	121	牛出窯跡	○	○	○	○	○	○		1993・1997調査
100	中野市	130	栗林1号墳				○				
101	中野市	131	栗林2号墳				○				
102	中野市	132	栗林3号墳				○				
103	中野市	126	安源寺城跡	○		○			○		1998調査
104	中野市	128	安源寺館跡				○				1990調査
105	中野市	127	安源寺跡						○		
106	中野市	124	安源寺	○	○	○	○	○	○	○	1951・1966・1976・1977・1985・1994・1995・2002調査
107	中野市	136	片塩					○			1960調査
108	中野市	113	中原窯跡					○			1984調査
109	中野市	114	東池田窯跡		○		○				2004調査
110	中野市	115	坂下窯跡					○			
111	中野市	112	茶臼峯窯跡	○				○			1963・1964・1971・2005・2006調査
112	中野市	106	茶臼峯遺跡・茶臼峯砦跡 (含、茶臼峯旗塚)		○			○	○	○	1974調査
113	中野市	123	風巻					○			1989・2012調査
114	中野市	117	牛出城跡	○					○		1994・1997調査
115	中野市	116	立ヶ花	○	○	○	○				1962・1989・1990・1993・1997・2000調査
116	中野市	118	本誓寺跡						○		
117	中野市	120	草間西原窯跡					○			
118	中野市	110	池田端窯跡		○		○	○			1991・1992調査
119	中野市	107	林畔窯跡					○			
120	中野市	111	大久保窯跡					○			1964・1983調査
121	中野市	105	大久保館跡		○			○	○		
122	中野市	102	高山1号古墳				○				消滅
123	中野市	103	高山2号古墳				○				消滅
124	中野市	100	高屋敷		○	○		○			
125	中野市	108	立ヶ花表山窯跡					○			1970調査
126	中野市	229	沢田鍋土	○	○		○	○	○		1991・1992・1995・2005・2008・2009調査
127	中野市	109	清水山窯跡		○			○	○		1992・1994調査
128	中野市	104	上の山窯址					○			1993調査
129	中野市	96	西山古墳				○				消滅
130	中野市	95	京塚古墳				○				消滅
131	中野市	230	上の山					○			1994調査
132	中野市	97	秋葉山古墳				○				
133	中野市	99	御嶽山古墳				○				
134	中野市	101	社宮司古墳				○				
135	中野市	87	立ヶ花城跡		○	○	○		○		1980・1984・2006調査
136	中野市	91	立ヶ花表	○		○		○			1962・2007・2008調査
137	中野市	88	立ヶ花1号墳				○				
138	中野市	89	立ヶ花2号墳				○				

掲載番号	市町村	市町村番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	備考（発掘調査歴）
139	中野市	90	立ヶ花3号墳				○				
140	中野市	86	島軒割			○		○	○		
141	中野市	92	がまん淵・がまん淵（含、西山窯跡、西山中世墓址）	○	○	○	○	○	○		1991・1993調査
142	中野市	93	竜徳寺跡						○		
143	中野市	94	草間城跡						○		
144	中野市	85	川端			○					
145	中野市	98	草間中組			○		○			
146	中野市	84	殿橋			○					
147	中野市	77	屋裏			○		○			
148	中野市	76	吉田宮脇（含、吉田屋敷下、吉田立道、五里原遺跡）			○		○	○		2009・2010調査
149	中野市	76	（五里原）						○		
150	中野市	74	寿町			○					
151	中野市	72	岩船			○		○			
152	中野市	69	西条・岩船遺跡群			○		○	○		1989～1995調査
153	中野市	69-2 (71)	岩船氏居館跡						○		
154	中野市	70	三好町					○			
155	中野市	56	中野県庁跡（中野陣屋跡）							○	（県史跡）
156	中野市	55	高梨氏館跡						○		（国史跡）1989～1992・1994・1998・1999調査
157	中野市		中野小館						○		
158	中野市	52	普代		○	○	○	○			1981調査
159	中野市	62	栗和田1号古墳				○				
160	中野市	63	栗和田2号古墳				○				
161	中野市		竹のところ						○		
162	中野市	58	旗塚						○		
163	中野市	59	旗塚						○		
164	中野市	57	帯之瀬城跡						○		
165	中野市	54	鴨ヶ嶽城跡（含、鎌ヶ嶽城跡）						○		県史跡 高梨氏城跡（山城）を含む
166	中野市	68	西条長屋塚					○			西条長屋敷遺跡を改称
167	中野市	67	西条東屋敷			○	○	○	○		1998・2014調査
168	中野市	66	五加					○			
169	中野市	46	上小田中		○	○	○	○	○		1971・1997・1998調査
170	中野市	44	下小田中			○	○	○			
171	中野市	45	光念寺古墳				○				現在墓地
172	中野市	51	上小田中経塚						○		
173	中野市	49	姥懐					○			1966・1968調査
174	中野市	50	姥懐山古墳				○				1967調査 消滅
175	中野市	47	北越巻		○						
176	中野市	41	中郷		○			○			
177	中野市	48	伊勢山下（更科裏の山遺跡）		○						1968調査
178	中野市	43	上の山古墳				○				
179	中野市	42	然沢山一乗院跡						○		
180	中野市	22	新保					○			
181	中野市	38	高遠山古墳				○				（県史跡）1997・1999調査
182	中野市	39	寺上					○			
183	中野市	40	間瀬場				○				
184	中野市	21	篠井居館跡						○		別称 内田屋敷
185	中野市	26	行人塚					○			
186	中野市	20	道添			○		○			
187	中野市	19	三ツ和		○	○		○	○		
188	中野市	23	金鑑山古墳				○				（市史跡）1925調査
189	中野市	24	新野1号古墳				○				
190	中野市	25	新野2号古墳				○				
191	中野市	28	新野		○	○	○	○	○		1990・2002・2010調査
192	中野市	29	新野陣屋跡							○	
193	中野市	30	新野上東					○	○		1983調査
194	中野市	31	間山		○	○	○	○	○		1958・1983・1991・1992調査
195	中野市		間山館						○		
196	中野市	37	道光砦跡						○		
197	中野市	32	岸梨					○			1979調査
198	中野市	18	えびす山古墳				○				
199	中野市	17	専福寺跡						○		
200	中野市	16	大熊日影					○			
201	中野市	27	小曾崖城跡						○		
202	中野市	11	大日前								時期不明
203	中野市	12	大熊日向			○		○			大熊日影遺跡を改称
204	中野市	13	大円寺			○					
205	中野市	3	桜沢遺跡群		○	○	○	○			1965・1989調査
206	中野市	4	蟹沢塚				○?		○?		古墳か中世の塚

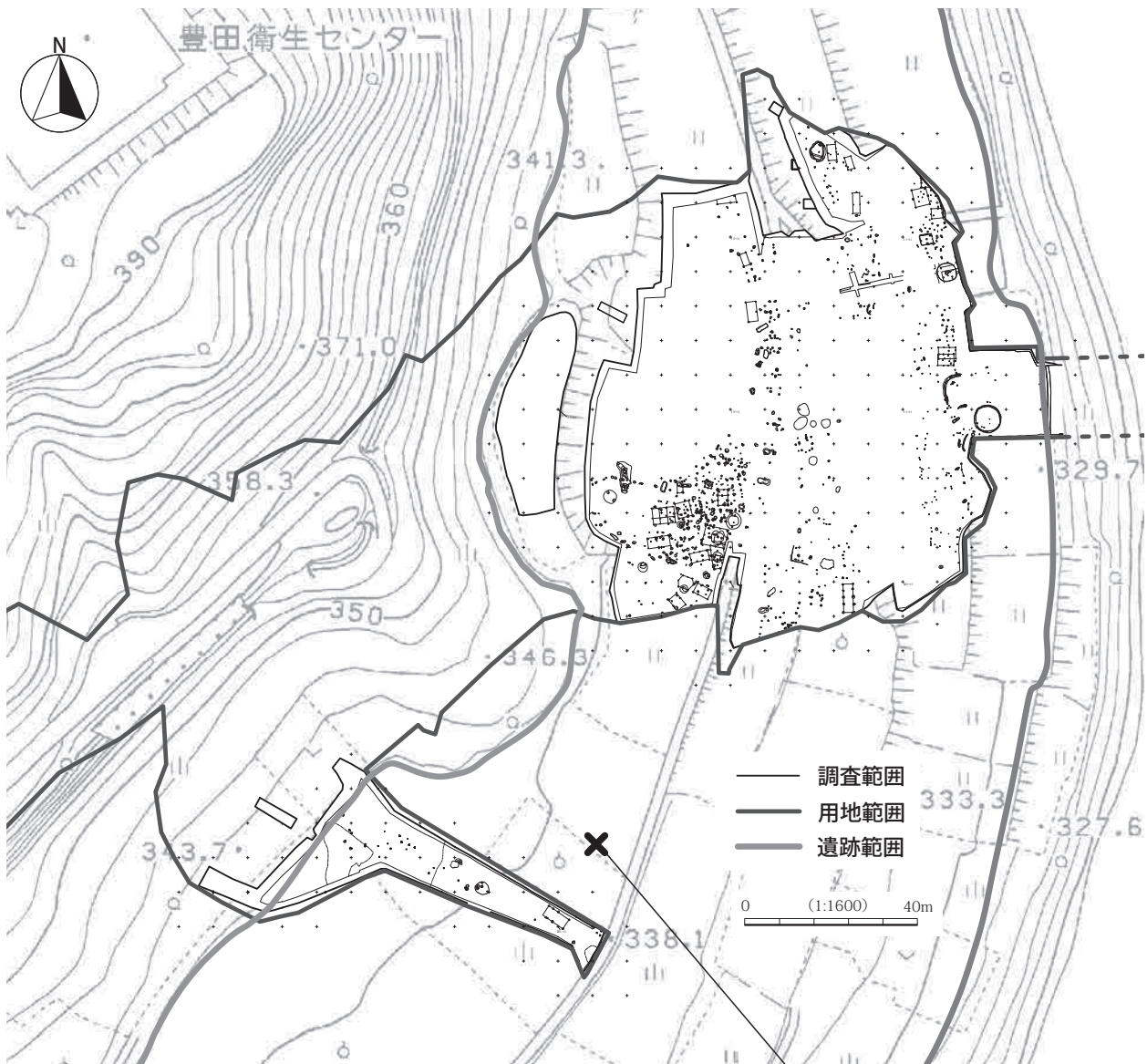
第2章 遺跡の環境と概要

掲載 番号	市町村	市町村 番号	遺跡名	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	古 代	中 世	近 世	備考（発掘調査歴）
207	中野市	1	二十端城跡・滝ノ入城跡						○		
208	中野市	2	中尾		○	○		○			
209	中野市		小丸館						○		
210	中野市	5	桜沢1号古墳				○				
211	中野市	6	桜沢2号古墳				○				
212	中野市	7	桜沢3号古墳（蟹沢古墳）				○				（市史跡）
213	中野市	8	桜沢4号古墳				○				1984調査
214	中野市	9	桜沢5号古墳				○				
215	中野市	10	桜沢6号古墳				○				
216	中野市	15	西山砦跡						○		
217	中野市	33	真山城跡						○		
218	中野市		左衛門屋敷						○		
219	中野市	14	沼ノ入城跡						○		
220	長野市	3	二ツ石		○						
221	長野市	49	極楽寺跡						○		
222	長野市	46	小軽井					○			
223	長野市	58	箕羽田					○			
224	長野市	7	立石ヶ丘		○	○	○	○			1978調査
225	長野市	4	八幡社					○			
226	長野市	5	板橋					○	○		
227	長野市	6	下張	○							
228	長野市	17	大道添		○		○				
229	長野市	16	町尻		○			○			
230	長野市	12	観音堂		○	○	○				
231	長野市	13	橋場			○					
232	長野市	10	中島		○						
233	長野市	101	坊溜						○		
234	長野市	47	手子塚	○							
235	長野市	80	手子塚城跡						○		
236	長野市	77	膳棚					○			
237	長野市	8	南首峯	○	○	○	○	○			1980・1993・2005～2007調査
238	長野市	11	峰の畑					○			
239	長野市	9	南首峯古墳				○				
240	小布施町	66	北久保			○	○	○			
241	小布施町	67	土橋・川端			○					
242	小布施町	68	焼釣					○			
243	小布施町	1	西郷			○	○	○			
244	小布施町		くぬぎ原庄 高梨氏居館						○		
245	小布施町	2	向屋敷				○	○			
246	小布施町	3	西蓮坊			○	○	○			
247	小布施町	4	三木			○	○	○			
248	小布施町	5	六川		○	○	○	○			
249	小布施町	8	松宮		○	○	○	○			
250	小布施町		椎谷藩六川陣屋							○	
251	小布施町	9	三田町			○	○	○			
252	小布施町	6	道添				○	○			
253	小布施町	7	中子塚			○	○	○			1978調査
254	小布施町	16	銚子塚古墳				○				
255	小布施町	10	中条堀廻			○	○	○	○		1953・1976・1977調査 旧立石遺跡・堀廻遺跡・宮浦遺跡・中子塚遺跡・宮下遺跡・狐塚遺跡・御蔵屋敷遺跡
256	小布施町	17	古堂塚古墳				○				
257	小布施町	12	中町			○	○	○	○		
258	小布施町	22	木戸脇		○			○			
259	小布施町	21	飯縄前	○		○		○	○		
260	小布施町	37	下入4号墳				○				
261	小布施町	38	下入5号墳				○				
262	小布施町	39	下入6号墳				○				
263	小布施町	20	わぐ		○	○		○			
264	小布施町	25	二十端城跡						○		
265	小布施町	33	二十端1号墳				○				
266	小布施町	34	二十端2号墳				○				
267	小布施町	35	二十端3号墳				○				
268	飯綱町	8	瘤屋敷					○			

*市町村番号が空白な遺跡は、長野県埋蔵文化財センター2013『中野市川久保・宮沖遺跡』の周辺遺跡一覧表より引用



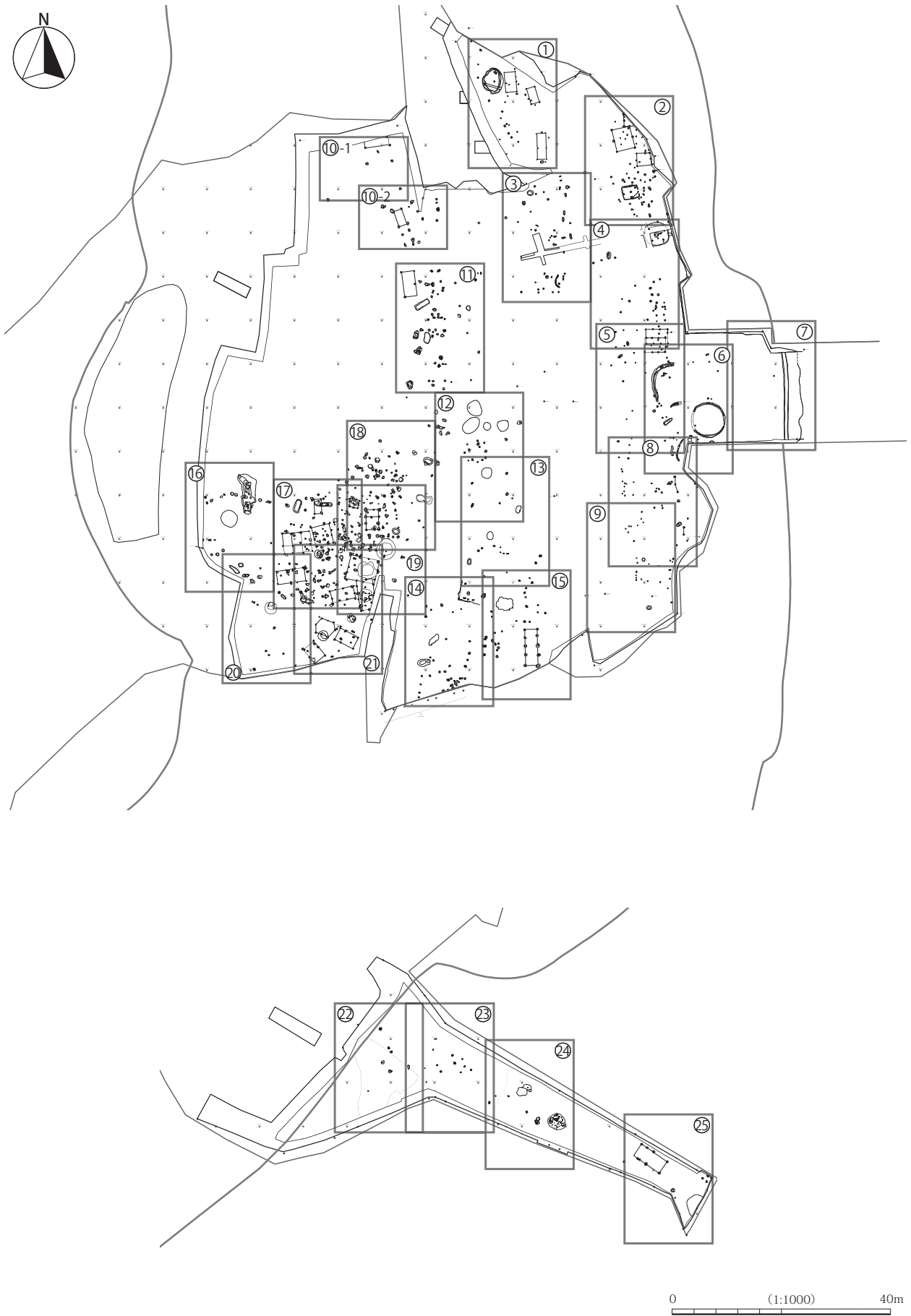
第7図 長野盆地北部・飯山盆地における弥生時代中期の遺跡分布図
 (長野県埋蔵文化財センター 2012c 『中野市柳沢遺跡』: 29 より転載、一部加筆)



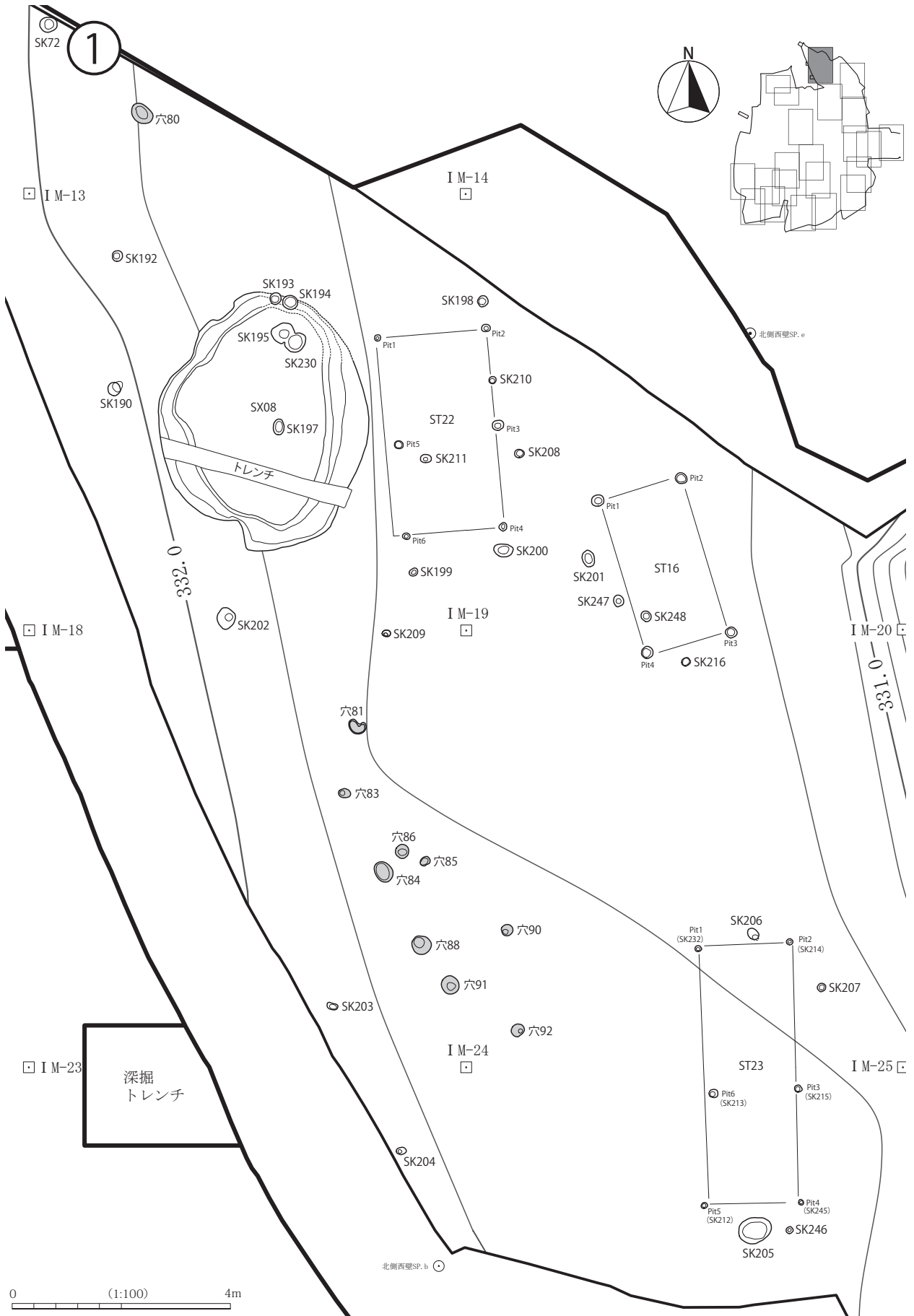
第10図 遺跡全体図



水田出土の大型蛤刃石斧
(田子元久所蔵)

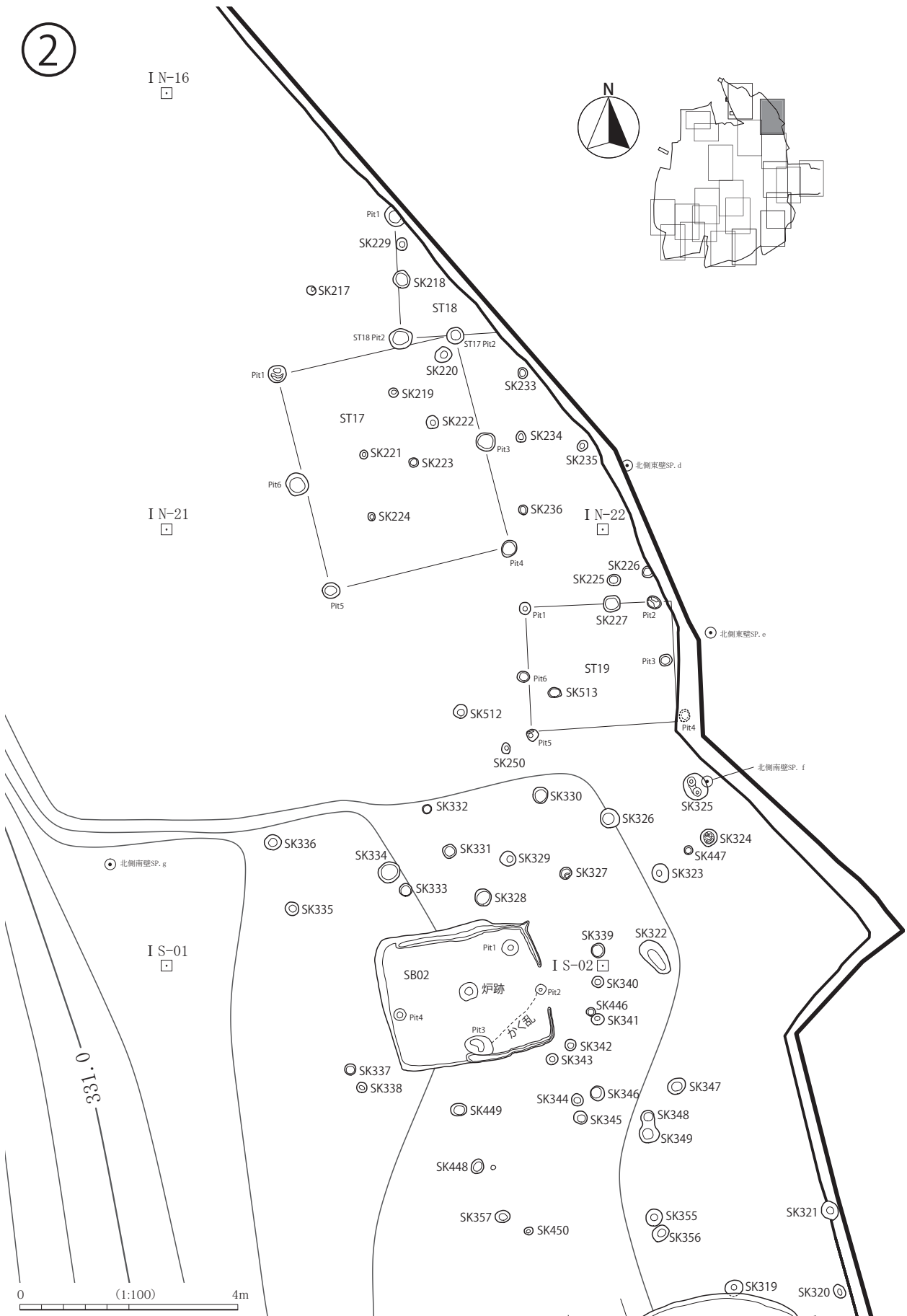


第11図 割付配置図

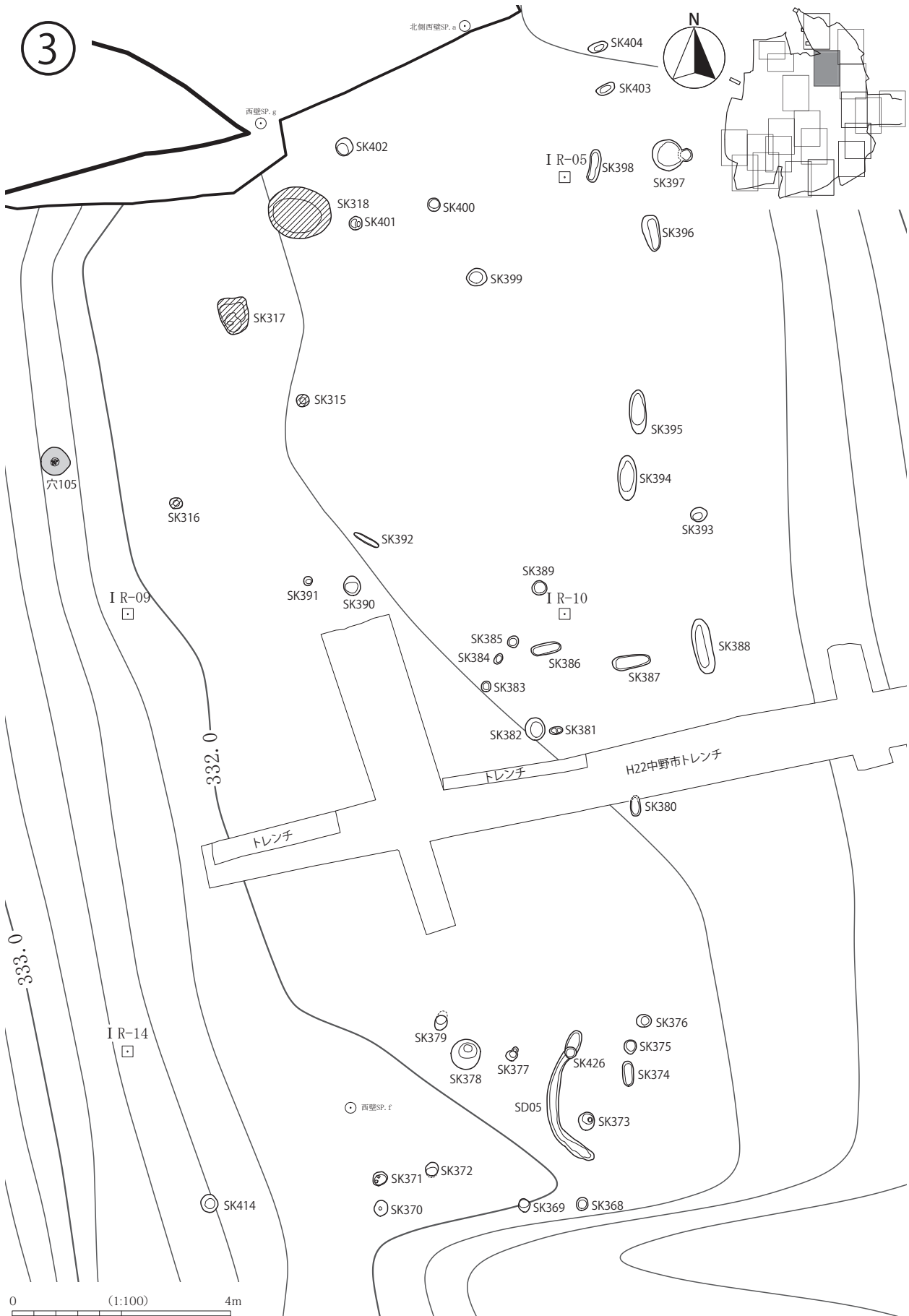


第12図 割付図①

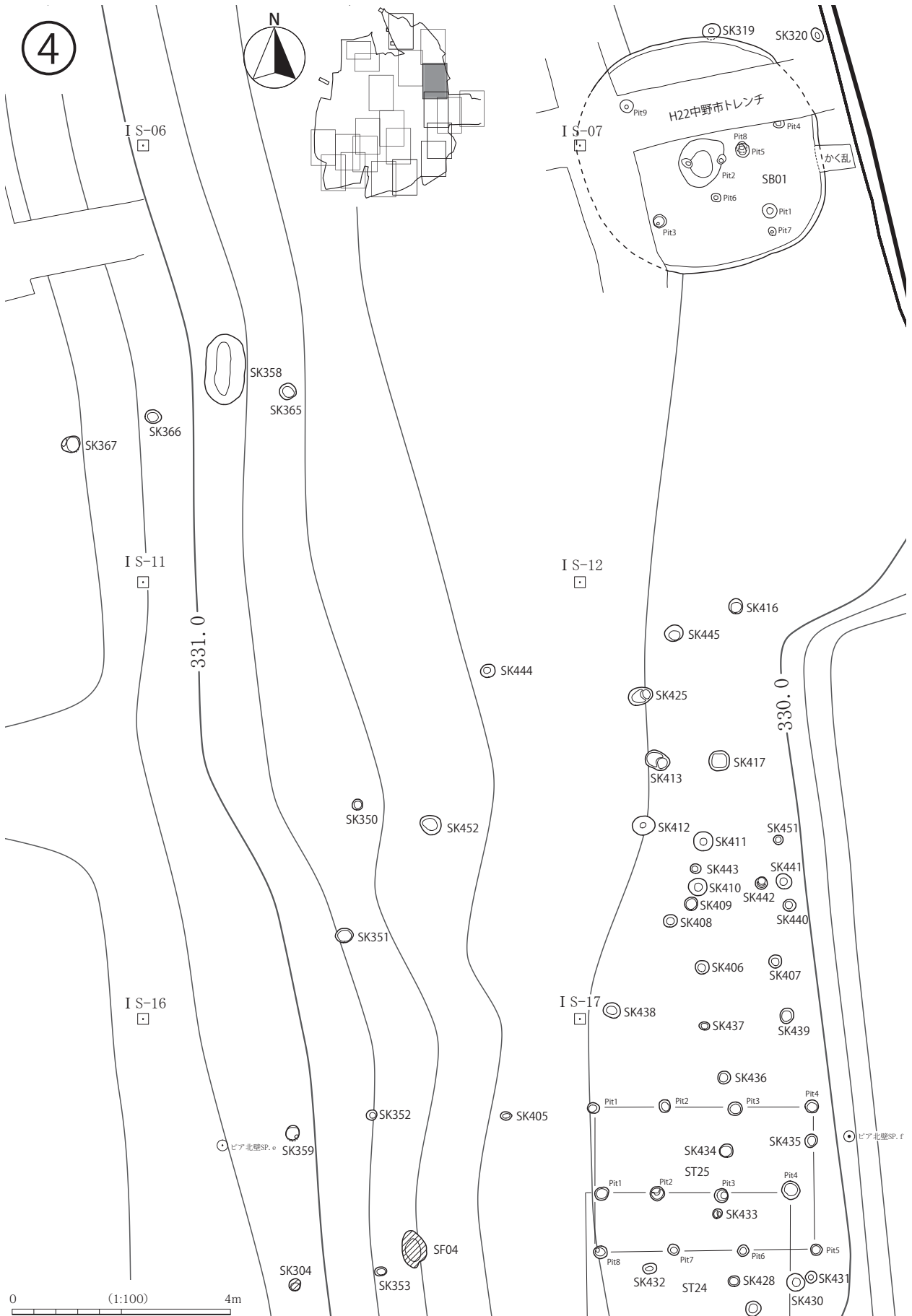
②



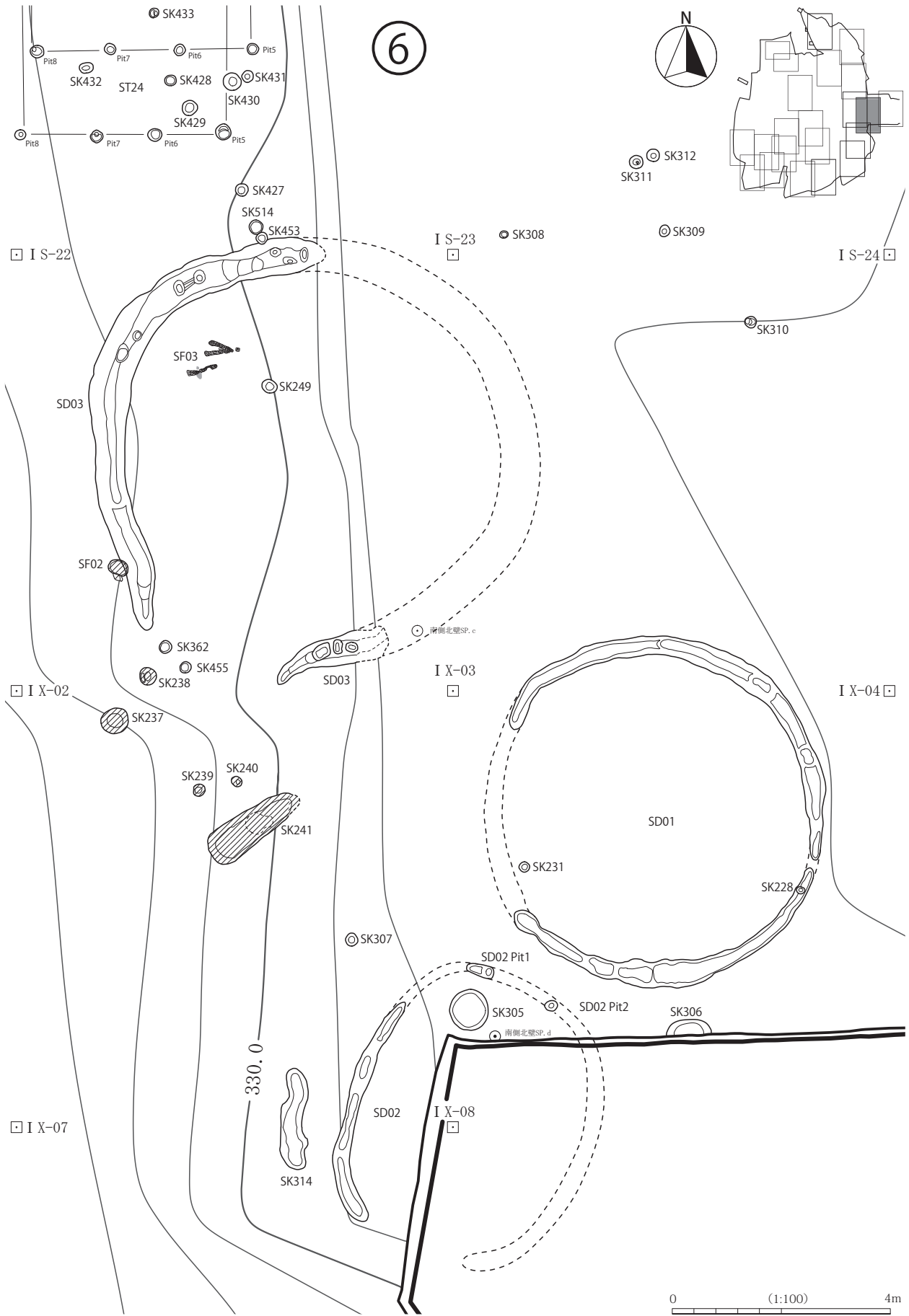
第13図 割付図②



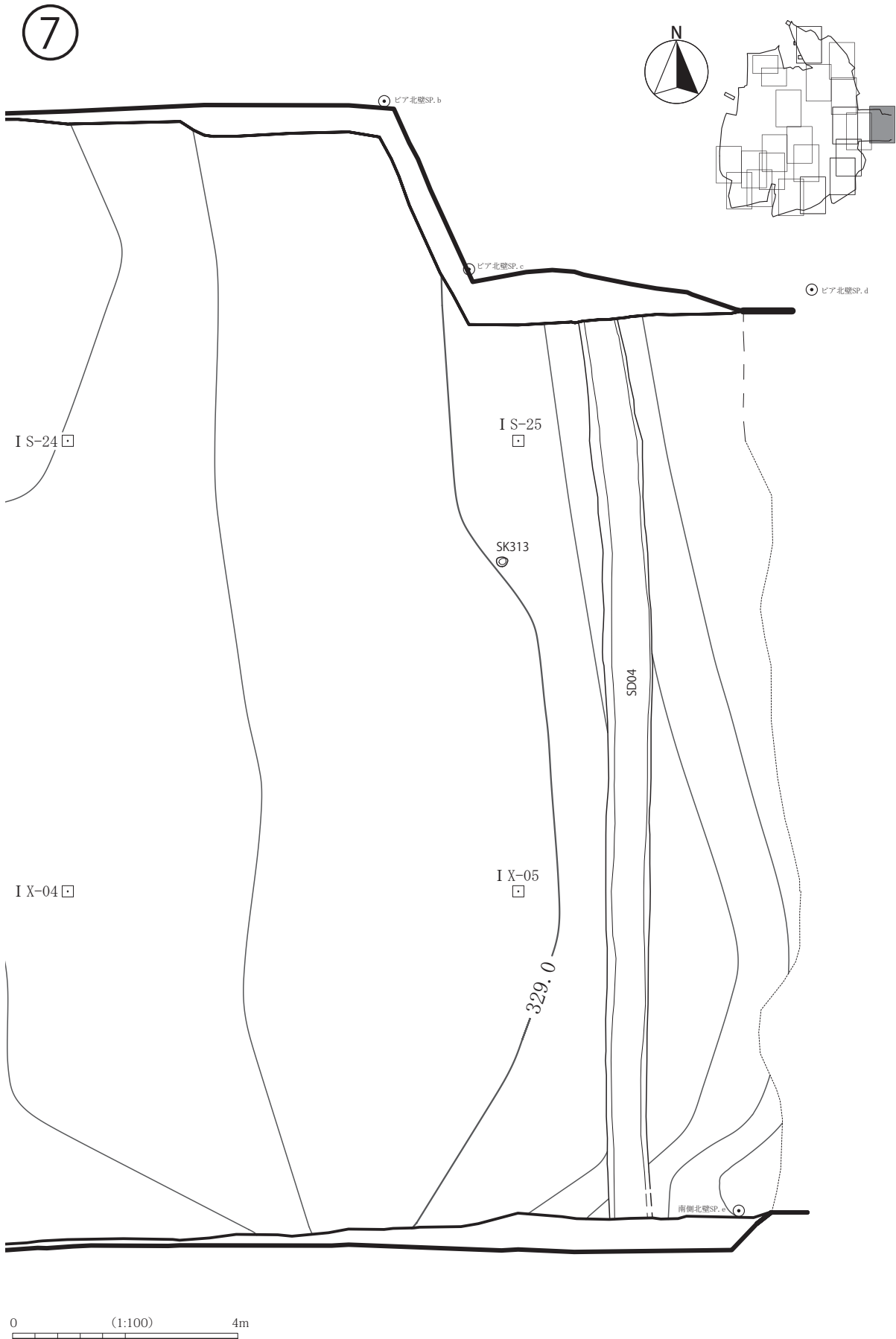
第14図 割付図③



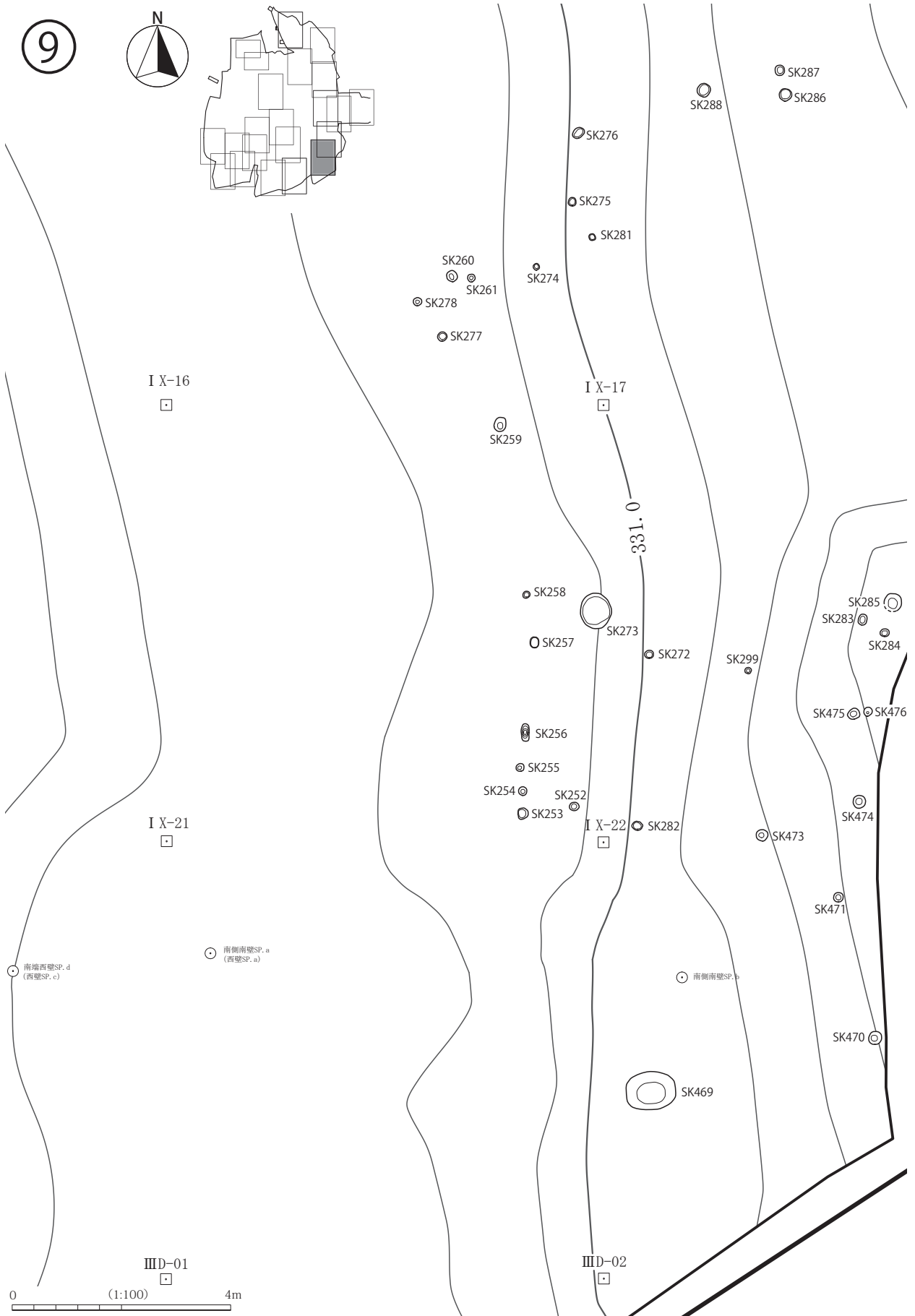
第15図 割付図④



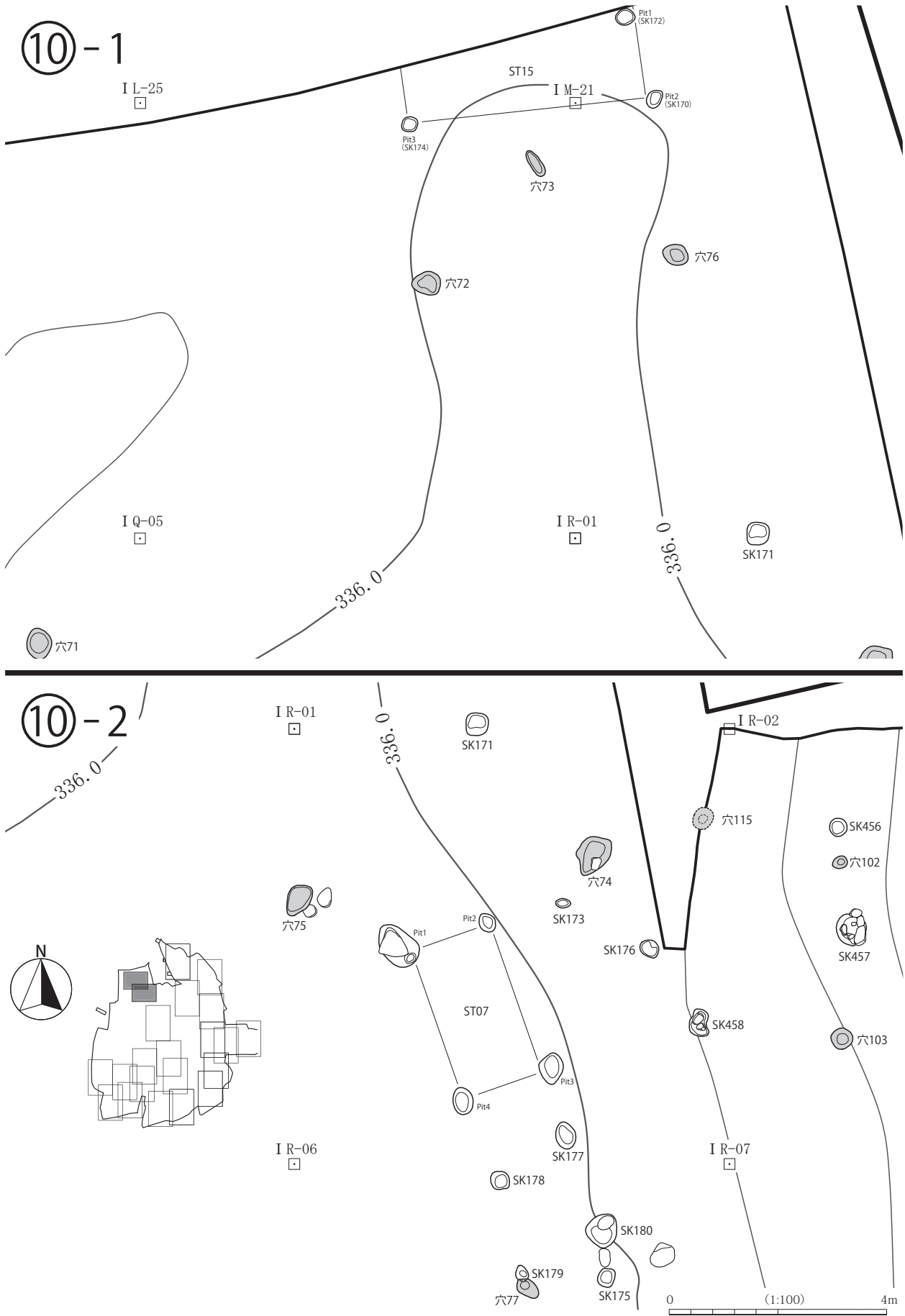
第17図 割付図⑥



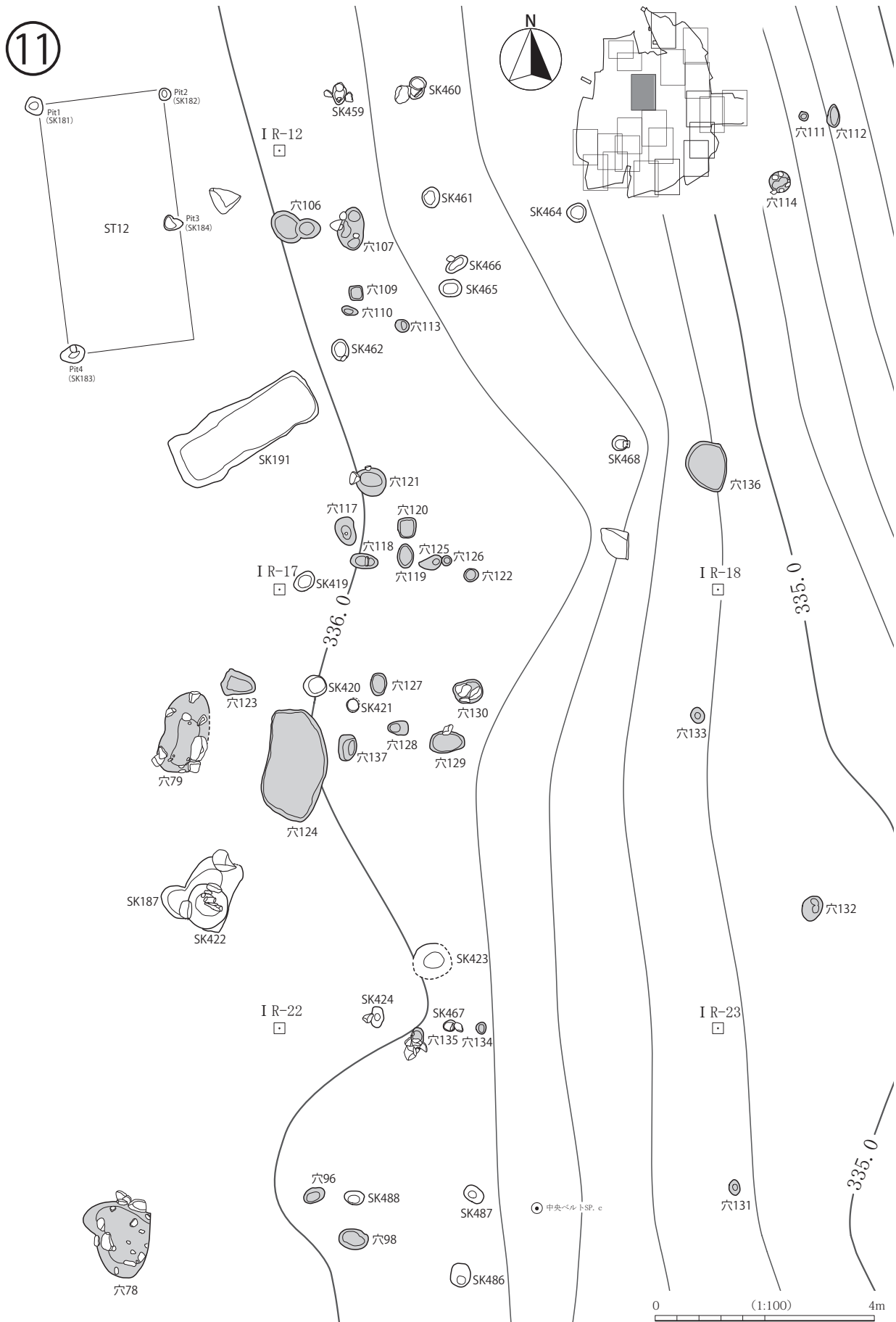
第18図 割付図⑦



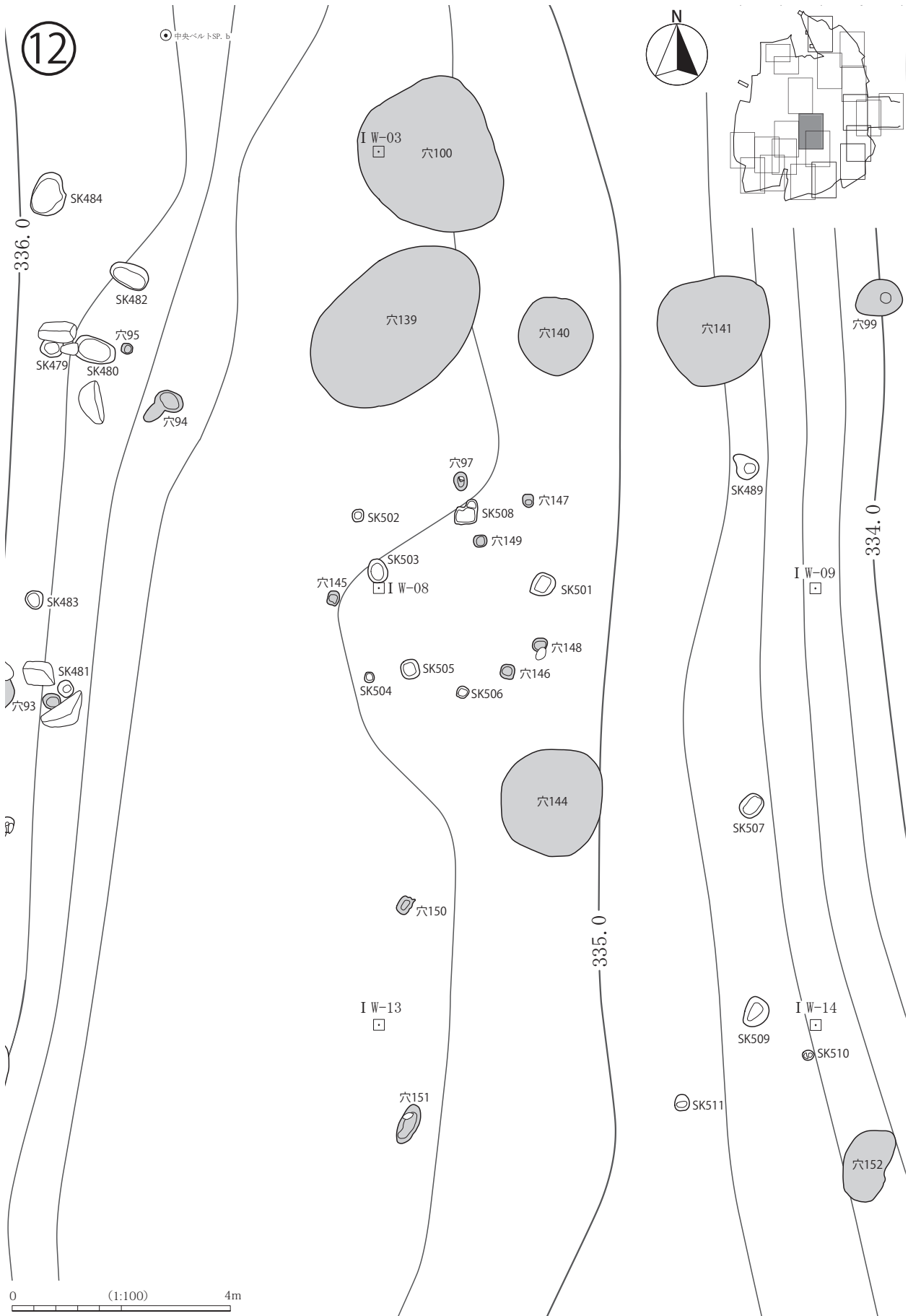
第20図 割付図⑨



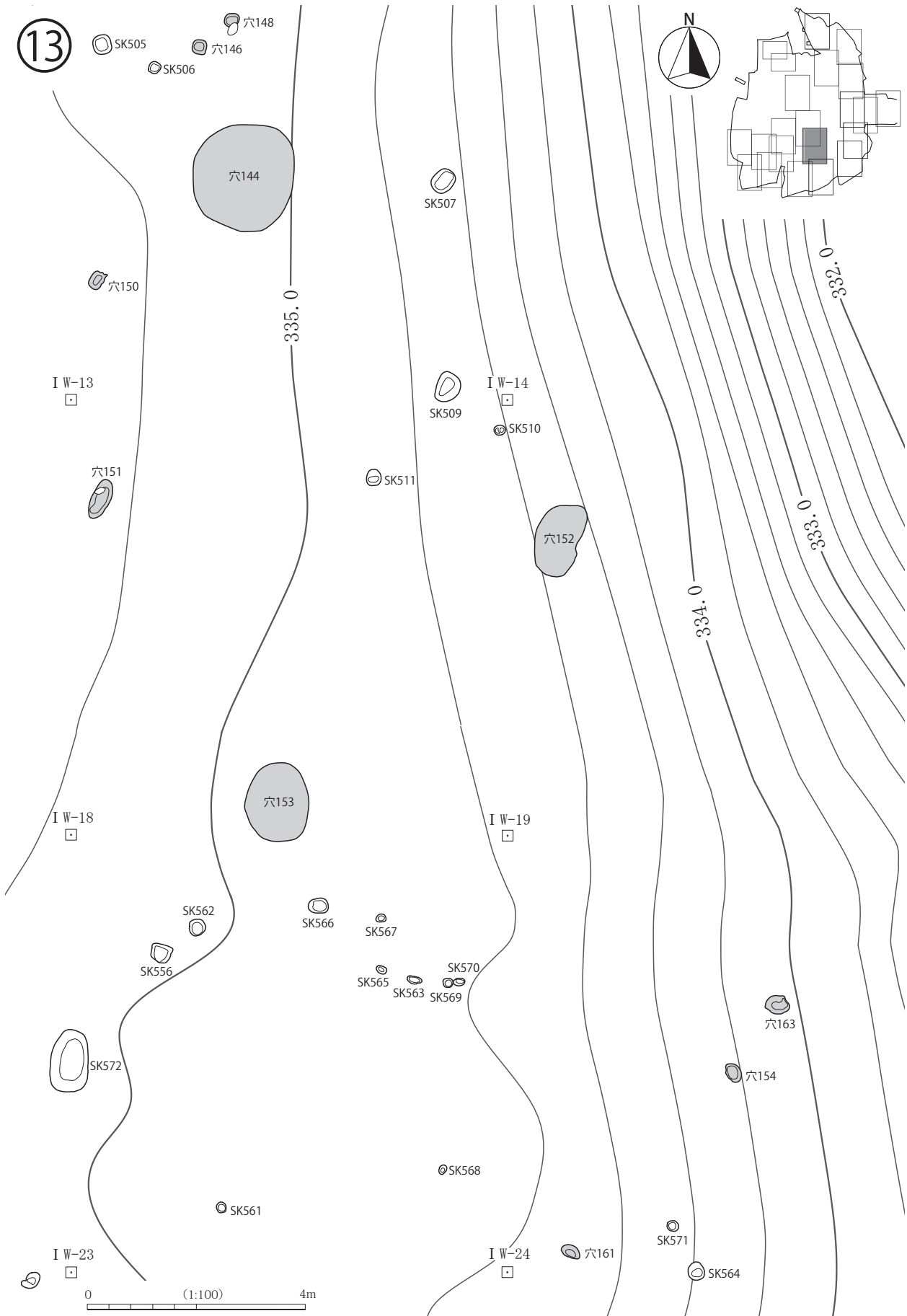
第21図 割付図⑩



第22図 割付図⑪



第23図 割付図⑫



第24図 割付図⑬